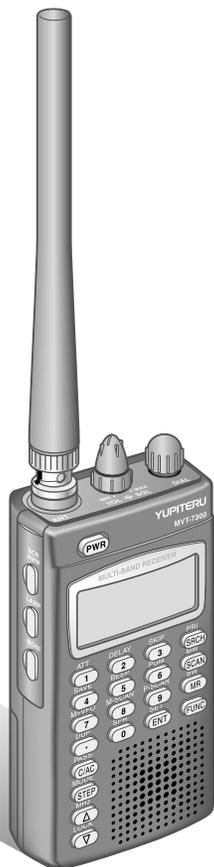


マルチバンドレシーバー
MVT-7300

取扱説明書



このたびは、ユピテルのマルチバンドレシーバーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

⚠ 注意

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、大切に保管してください。

本書の読みかた

MVT-7300を**お使いになる前に**必ずお読みください。

はじめに
安全上のご注意や操作の前に準備しておくことが書かれています。

まず、**基本の操作**をすべて修得してください。
ここを読めば、はじめてお使いになる方も使えます。

基本の操作

MVT-7300の基本的な使いかたや盗聴器の探し方などを説明しています。

MVT-7300を**使いになす**ための説明です。
基本の操作をすべて修得されてからお読みください。

メモリーとスキャン

チャンネルメモリーへの登録方法と、これらのチャンネルメモリーを効率よく呼び出すスキャンについて説明しています。

その他の機能

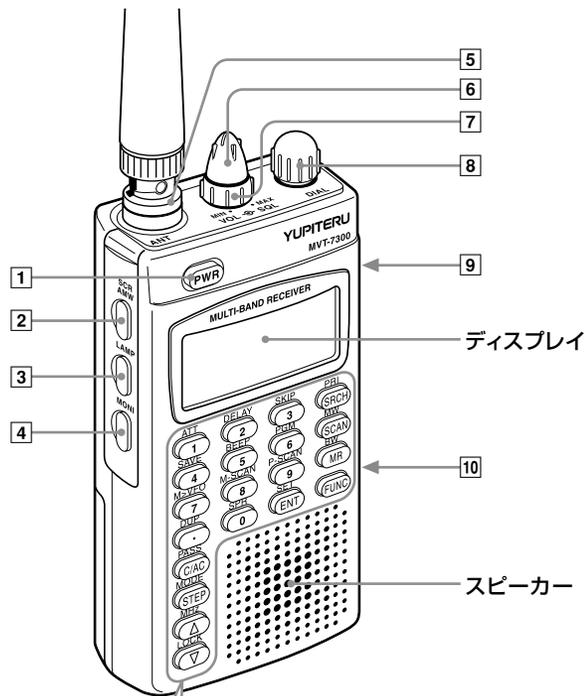
覚えておくと便利な機能や、特殊な電波を受信するための設定など、MVT-7300の豊富な機能を説明しています。

知っておきたいこと

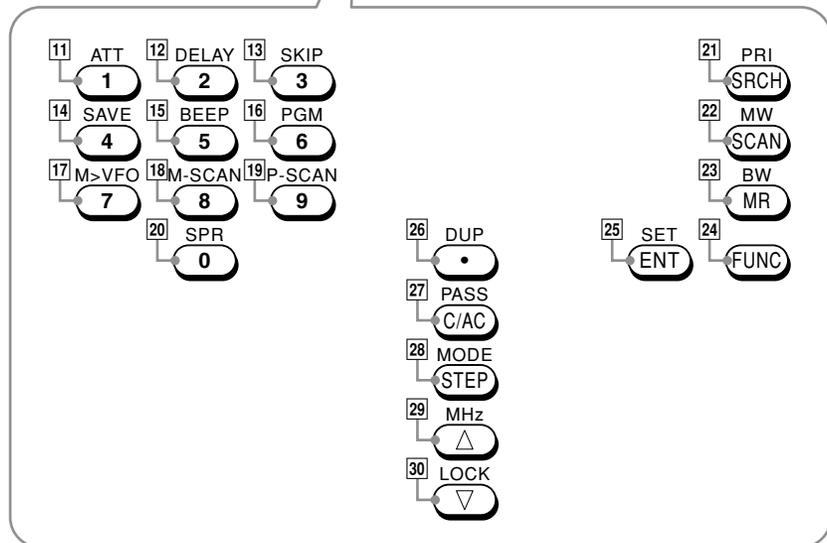
「主な無線局の受信モードと周波数ステップ」や「操作早見表」などがまとめられています。
また、故障かな?と思ったときにもご覧ください。

各部の名称

本書をご覧になるときは、このページを開いてお読みください。



操作キーの名称



特長

531kHz～1320MHzをすべての受信モードでフルカバー

本機の受信範囲は、531kHz～1,320MHz（受信周波数範囲）の広帯域をW-FM、FM、AM、N-AM、LSB、USB、CWの受信モードでフルカバーします。

※ 表示周波数範囲は100kHz～1320MHzです。

高速スキャン/サーチ機能

スキャン/サーチスピードは、1秒間に最大で30チャンネル/30ステップと高速です。

豊富な周波数ステップ

選択できる周波数ステップは50Hzから125kHzの16種類。広範囲な周波数に対応できます。

※ 受信モードにより、選択できる周波数ステップが異なります。

面倒な設定がいらぬプリセット機能

周波数帯に合った周波数ステップと受信モードなどがあらかじめ設定されています。周波数ステップの選択または受信モード選択時に[AUTO]に設定すれば、受信周波数を選ぶだけで効率的な受信ができます。※工場出荷時は[AUTO]に設定されています。

デュプレックス受信機能

決められた周波数で相互に交信している無線局を受信する場合、その2つの周波数を切り換えながら、スムーズに受信できます。

10バンドサーチ機能

FM放送や航空無線、パーソナル無線など主要10バンドのデータがあらかじめ登録されていますので、周波数を調べずに簡単に受信できます。また、この10バンドは登録内容を変更できます。

盗聴器周波数サーチ/テレビ音声チャンネルサーチ

10バンドサーチ機能の他、使用される可能性の高い無線式盗聴器の周波数（165チャンネル）と、テレビの音声チャンネル（1～62ch）の周波数があらかじめ登録されています。

※ これら2つのバンドデータは変更できません。

1000チャンネルメモリー機能

受信したいチャンネルを最大1000チャンネルまで登録できる大容量のチャンネルメモリー機能。さらに、そのチャンネルメモリーを効率良く受信するメモリスキャンやバンクスキャン、モードスキャン、プログラムスキャンなど、多彩なスキャン機能を備えています。また、不要な周波数を最大500まで指定して、サーチ周波数からパスできるサーチパスメモリーも備えています。

秘話解読機能

音声反転方式の秘話通信を、通常音声に戻して受信できるディスクランブル回路を内蔵しています。

タイマー機能

電源OFFのとき、周波数表示部に時刻を表示します。タイマー機能では、設定した時刻にアラームを鳴らすアラーム機能や、電源を自動的にONにするONタイマー機能、設定した時間後に自動的に電源をOFFにするOFFタイマー機能を設定できます。

バックライト付多機能ディスプレイ、キーイルミネーション機能

ディスプレイのバックライトはイエローグリーン、オレンジの切り換えができます。

どこでも使える3電源方式

市販のアルカリ乾電池やニカド電池での携帯使用や、付属のACアダプターによる家庭用電源の使用、別売のシガープラグコード（12Vシガーライターソケット使用）による車載使用ができます。

クローン機能

メモリー内容を他のMVT-7300にコピーすることができます。

目次

本書の読み方	2	プログラムスキャン	35
各部の名称	3	プログラムスキャンさせるチャンネル メモリーを指定する<プログラム登録>	35
特長	4	プログラムスキャンする	35
安全上のご注意	6	プログラムスキャンでバンクスキャンする <バンク指定プログラムスキャン>	35
使用上のご注意	9	プライオリティ	36
各部の名称とはたらき	10	プライオリティチャンネルに登録する	36
付属品の確認と取り付け	14	プライオリティ受信する	36
電源について	15	受信のためのミニ知識	37
準備	16	周波数ステップを変更する	33
選局する(VFOモードで受信する)	17	受信モードを変更する	34
VFOモードとは	17	デュープレックス受信する	40
VFOモードにする	17	デュープレックスモードに設定する	40
周波数ステップ/受信モードの選択 (オートモードにする)	17	デュープレックス交信を受信する	40
数字キーによるダイレクト選局	18	音声反転(スクランブル)の 秘話交信を聞く	41
DIALツマミによる周波数選局	20	サーチやスキャンの付加機能	42
△キーまたはマキーによる ステップ選局	20	ディレイの切換え	42
MHz桁の周波数変更	20	スキップ機能	42
選局する(サーチモードで受信する)	21	オートライト機能	42
VFOサーチとは<連続サーチ>	21	サーチバンドの内容を変更する	43
VFOサーチする	21	サーチバンドメモリー	43
サーチの方向を変える	21	付加機能(便利な機能を使う)	44
バンドサーチとは	22	モニター機能	44
バンドサーチする	22	ランプ機能	44
無線式盗聴器の探し方	25	ピープ音の切り換え	45
サーチバスメモリー	26	キーロック機能	46
サーチバスに登録する	26	アッテネーター機能	46
サーチバスメモリーリードする	26	バッテリーセーブ機能	47
サーチバス登録を解除する	27	クローン機能	48
チャンネルメモリー	28	タイマー機能	49
チャンネルメモリーに登録する	28	タイマー機能について	49
チャンネルメモリーリード	28	セットモードにする	49
<チャンネルメモリーの呼び出し>	29	時計時刻の設定	50
チャンネルメモリーの登録を削除する	29	アラーム機能の設定	51
チャンネルメモリーの周波数を VFOモードへコピーする	30	ONタイマー機能の設定	52
スキャンバスに登録する	30	OFFタイマー機能の設定	53
スキャンバス登録を解除する	31	初期設定	54
スキャン(チャンネルメモリスキャン)	32	リセット機能について (メモリーオールクリア)	54
連続スキャンする	32	主な無線局の受信モードと 周波数ステップ(プリセット)	55
<全チャンネルスキャン>	32	故障かな?と思ったら	56
スキャンの方向を変える	33	アフターサービスについて	57
バンクスキャンする	33	仕様	58
<全バンク指定スキャン>	33	操作早見表	59
モードスキャン	34		
モードスキャンで連続スキャンする	34		
<モードスキャン>	34		
モードスキャンでバンクスキャンする	34		
<バンク指定モードスキャン>	34		

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

警告：警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う可能性があります。

注意：注意を無視した取り扱いをすると、使用者が傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

絵表示について

△ 記号は注意を促す内容であることを告げるものです。

⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

● 記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

警告

☞ 水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない
火災や感電、故障の原因となります。

☞ 風呂などで使用しない。また、ぬれた手で電源を抜き差ししない
感電の原因となります。

☞ 表示された電源電圧以外では使用しない
火災や感電、故障の原因となります。

☞ 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない
感電やショートによる発火の原因となります。

☞ 電源に接続する場合に分岐やタコ足配線をしない
異常過熱や発火、故障の原因となります。また、別売のシガープラグコードでカー電源に接続する場合は、極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。

● ACアダプターやシガープラグコードの差し込みは、確実にを行う
接触不良を起こして、火災の原因となります。

● ACアダプターやシガープラグコードの差し込み部分のホコリをよくふく
接触不良を起こして、火災の原因となります。

☞ ACアダプターやシガープラグコードは付属または指定のもの以外は使用しない
火災や感電、故障の原因となります。

警告

☞ 穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない
火災や感電、故障の原因となります。

☞ 機器本体および付属品を改造しない
火災や感電、故障の原因となります。

● 万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにACアダプターやシガープラグコードを抜く
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

● 雷が鳴りだしたら使用を中止する
感電の原因となります。

☞ サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない
感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

☞ 運転中は絶対に操作しない
わき見運転は重大事故の原因となります。

● 自動車で使用する場合、運転の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける
誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

☞ 自動車で使用する場合、助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない

万一のとき、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。

☞ 煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない
発火の恐れがあります。すぐにACアダプターやシガープラグコードを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

-  電源コードを熱器具に近づけない
コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。
-  不安定な場所や振動、衝撃の多い場所に置かない
落ちたり、倒れたりして、ケガや故障の原因となります。
-  電源を抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。
-  移動させるときは、ACアダプターやシガープラグコードを外す
コードに傷がつき、火災や感電の原因となります。
-  電池を入れるときは、極性に注意し、指示通り入れる
間違えて入れると、電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
-  指定以外の電池は使用しない、また、古い電池を混ぜて使用しない
電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
-  使用済みの電池を火中に投げ入れない
爆発して火災や火傷の原因となります。
-  お手入れの際は、ACアダプターやシガープラグコードを外す
感電の原因となります。
-  長時間ご使用にならないときは、ACアダプターやシガープラグコードを外す
絶縁劣化による感電や、漏電火災の原因となります。
-  長時間ご使用にならないときは、中の電池を抜く
液漏れにより、周囲を汚損する原因となります。
-  イヤホンやヘッドセットで使用するとき、音量に注意する
突然の大きな音で耳を傷める恐れがあります。
-  旅客用飛行機の中では使用しない
飛行機の計器に異常を与える可能性があります。
-  病院の中では使用しない
医療用電気機器に電波による影響を与える可能性があります。医療機器の近くでは電源を切り、絶対に使用しないでください。

取り扱いについて

■本機が汚れたときは、柔らかい布などでふいてください。ポリエステルなどの静電気が起きやすいもの、ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。



■本機は広帯域受信機ですので、受信機内部の発振(スプリアス)により受信できなかったり、雑音が発生する周波数があります。また、テレビやラジオなどの近くで使用した場合には、影響を与えることがあります。

■他の無線機やテレビ、ラジオ、パソコン等のデジタル機器の近く、車内などでは雑音が入る場合があります。

■次のような場所での使用や放置はしないでください。

- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近く、あるいは炎天下の自動車内など温度の高くなる場所
- 湿度の高い場所や風通しの悪い場所
- ホコリや油煙の多い場所
- 非常に温度が低い場所

電源について

■ニカド電池を使用するときは、市販の充電器で充電してからお使いください。

■アルカリ電池の連続使用時間は、約17時間(ランプオフ、音量中間のとき)です。(連続使用時間は受信状態により変化します)

無線局について

■一部の機密を要する無線では、音声として聴くことのできない通信方式(デジタル通信など)が採用されています。

メモリーについて

■本体のPWRボタン[1]で電源を切ると、そのときの状態がメモリーされます。本体の電源を入れたまま外部電源の抜き差しや、電池の出し入れをすると、最後の状態はメモリーされず、次に電源を入れたときは、初期設定状態から始まります。

アンテナについて

■受信状況は、ご使用になる場所やアンテナによって変化します。

■ご使用になる場所やアンテナによってはテレビ放送などの強い電波の影響を受けて良好な受信ができないことがあります。

■付属のフレキシブルアンテナ以外に市販のアマチュア無線用のアンテナなども使用することができますが、その際は、目的とする周波数に合ったアンテナをご用意ください。使用されるアンテナ(増幅回路付外部アンテナなど)によっては混変調を起こしたり、受信状態を悪化させる場合があります。

■本機のANT端子はBNC型、インピーダンスは50Ωです。

受信内容について

■お客様が受信した内容は、電波法上、第三者に漏らしたり、行動に移したりすることが禁止されています。

タイマー機能について

■本機の時計時刻表示機能は1カ月に約3分程度ずれることがあります。時計時刻を合わせてからご使用ください。

万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止し、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

本体

- 1 PWRボタン(電源)**
電源の入/切ができます。
- 2 SCR/AMWボタン(スクランブル)**
音声反転方式秘話解読機能の操作ができます。また、ファンクションモード時はオートメモリーライトキーとなります。
- 3 LAMPボタン(ランプ)**
ディスプレイとキーボードの照明の操作ができます。
- 4 MONIボタン(モニター)**
受信信号が弱く、音声途切れるときなどに聞き取りやすくします。また、デュープレックスモード時は違うはたらき(周波数シフト)をします。
- 5 ANT端子(アンテナ接続)**
アンテナを接続します。
- 6 VOLツマミ(音量調節)**
右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。
- 7 SQLツマミ(スケルチ調整)**
無信号時の“ザー”という雑音を消すことができます。受信信号を効率よく受信するために使います。
- 8 DIALツマミ(チューニング)**
周波数やチャンネルメモリーの移動、受信モードの切り換え、周波数ステップの切り換えなどができます。
- 9 EAR端子(外部スピーカー)**
外部スピーカーやイヤホンを接続します。この端子に接続すると、本体のスピーカーからの音は出なくなります。
- 10 DC12Vジャック(外部電源)**
付属のA Cアダプターや別売のシガープラグコードを接続します。

キーボード

操作キーは、直接キーを押したときと、FUNCキー²⁴との組み合わせで2通りのはたらきをします。

直接キーを押したとき(ダイレクト入力モード)にはキー表面の機能を実行できます。

■ダイレクト入力モード時の機能
直接キーを押したとき

PRI
SRCH —ダイレクト入力モードの操作

操作キー		機能
11	ATT 1	数字キー (1)
12	DELAY 2	数字キー (2)
13	SKIP 3	数字キー (3)
14	SAVE 4	数字キー (4)
15	BEEP 5	数字キー (5)
16	PGM 6	数字キー (6)
17	M-VFO 7	数字キー (7)
18	M-SCAN 8	数字キー (8)
19	P-SCAN 9	数字キー (9)
20	SPR 0	数字キー (0)
21	PRI SRCH	サーチキー
22	MW SCAN	スキャンキー
23	BW MR	メモリーリードキー
24	FUNC	ファンクションキー
25	SET ENT	エンターキー
26	DUP .	小数点キー (.)
27	PASS C/AC	クリアキー
28	MODE STEP	ステップキー
29	MHz Δ	アップキー
30	LOCK ▽	ダウンキー

24 FUNCキー(ファンクション)
キーのはたらきを切り換えることができます。

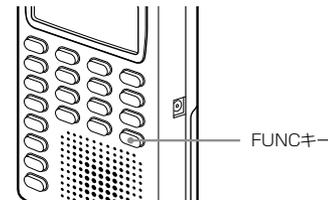
■ファンクションモード時の機能

FUNCキー²⁴を押して([FUNC]が点灯中)から別のキーを押すことにより、キー上部に表示された機能を実行することができます。

FUNC



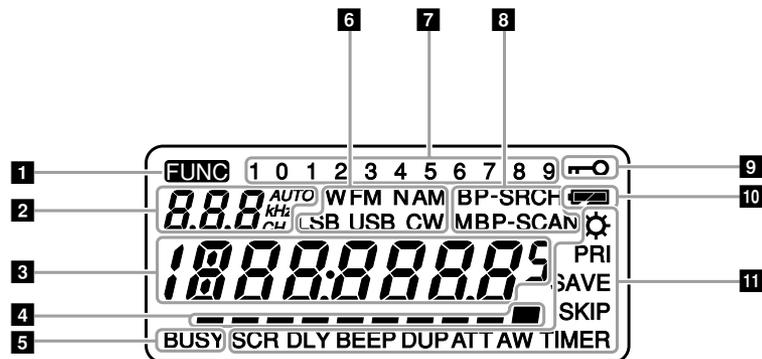
PRI
SRCH —ファンクションモードの操作



操作キー		機能	
24 → 11	FUNC ▶ ATT 1	アッテネーターキー	
24 → 12	FUNC ▶ DELAY 2	ディレイキー	
24 → 13	FUNC ▶ SKIP 3	スキップキー	
24 → 14	FUNC ▶ SAVE 4	セーブキー	
24 → 15	FUNC ▶ BEEP 5	ビーブキー	
24 → 16	FUNC ▶ PGM 6	プログラムキー	
24 → 17	FUNC ▶ M-VFO 7	メモリー-VFOキー	
24 → 18	FUNC ▶ M-SCAN 8	モードスキャンキー	
24 → 19	FUNC ▶ P-SCAN 9	プログラムスキャンキー	
24 → 20	FUNC ▶ SPR 0	サーチパスリードキー	
24 → 21	FUNC ▶ PRI SRCH	プライオリティキー	
24 → 22	FUNC ▶ MW SCAN	メモリーライトキー	
24 → 23	FUNC ▶ BW MR	バンドライトキー	
24 → 25	FUNC ▶ SET ENT	セットモードキー	
24 → 26	FUNC ▶ DUP .	デュープレックスキー	
24 → 27	FUNC ▶ PASS C/AC	パスキー	
24 → 28	FUNC ▶ MODE STEP	モードキー	
24 → 29	FUNC ▶ MHz Δ	MHzキー	
24 → 30	FUNC ▶ LOCK ▽	ロックキー	
24 → 2	FUNC ▶ 0	オートメモリーライトキー	

各部の名称とはたらき

ディスプレイ

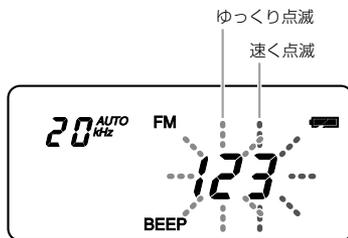


■周波数表示の見かた



■点滅表示の見かた

設定の状態により、ゆっくりした点滅と速い点滅で表示している場合があります。



1 ファンクション表示

ファンクションモードにすると点灯します。

2 周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部

サーチやVFOモード中に周波数ステップ【kHz】を表示します。また、盗聴器周波数サーチ中は【bus】を、テレビ音声サーチ中はテレビチャンネル【1~62】を表示します。スキャン中やメモリーリード時はチャンネルナンバー【CH】を表示します。周波数ステップの選択や受信モードの選択でオートを設定したときは【AUTO】を表示します。また、プライオリティチャンネルでは【PCH】が表示されます。

3 周波数表示部

選んだ周波数や入力中の数値を表示します。電源OFF時は時計時刻を表示します。工場出荷時(時刻を設定していない状態)では外部電源の接続または電池を装着すると【0:00】を表示します。

4 受信レベル(Sメーター)表示部

受信している電波の状態を表示します。

5 BUSY表示

モニターボタンが押されているときや信号を受信したときなど、スケルチが開いたときに点灯します。

6 受信モード表示

選択している受信モード(電波型式)を表示します。

7 バンド/バンクナンバー表示部

選択されているバンドや、バンクのナンバーなどを表示します。

8 動作モード表示

サーチやスキャンなどの動作状態を表示します。

9 ロック表示

ロックにすると点灯します。

10 バッテリー状態表示

本機の電源ONの間、電池の容量を4段階で表示します。

電池の残量表示について

本機は、電源ONのとき、電池の残量を4段階で表示します。



●電池の残量が完全になくなった場合は、ディスプレイに何も表示されません。

11 設定状態表示部

機能の設定状態を表示します。

付属品の確認と取り付け

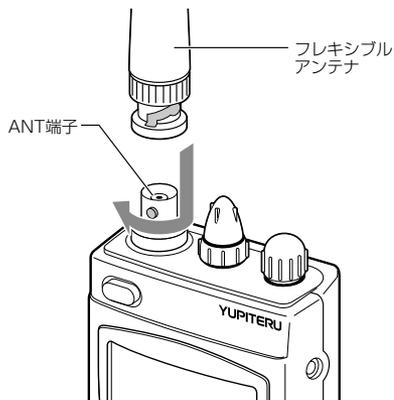
付属品リスト

ご使用前に、付属品をご確認ください。

- フレキシブルアンテナ (1)
- ACアダプター (1)
- ベルトクリップ (1)
- イヤホン (1)
- 取扱説明書 (1)
- 保証書 (1)
- メモリーリスト(暫定) (1)

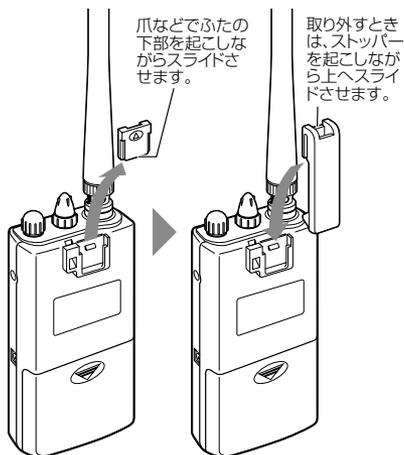
アンテナの取り付けかた

付属のフレキシブルアンテナの溝と、ANT端子の凸部を合わせて差し込み、軽い手応えがあるまで時計方向に回します。



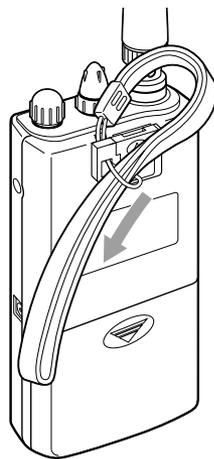
ベルトクリップの取り付けかた

ベルトクリップ取り付け部のフタをはずし、図のように差し込みます。



ハンドストラップの取り付けかた

市販のハンドストラップを、図のように取り付けることができます。



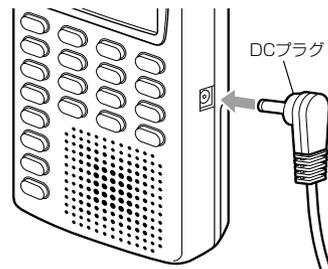
電源について

本機は、付属のACアダプターや別売のシガープラグコードを接続しての外部電源(家庭用電源、カー電源)での使用や、市販の単3形アルカリ乾電池、ニカド電池での携帯使用ができます。
 ※購入後、初めて外部電源を接続したときや、電池をセットしたとき、本機の電源がOFFの状態では、ディスプレイに[0:00]が表示されます。(時計時刻の設定は、「時計時刻を設定する」50ページをご覧ください)

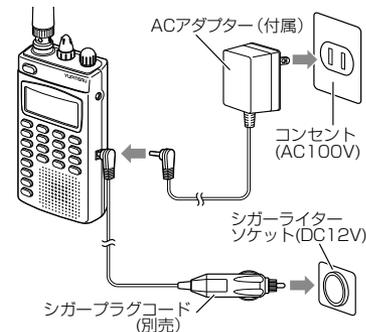
外部電源で使う

1 DC12VジャックにACアダプターや別売のシガープラグコードのDCプラグを接続する

ACアダプターやシガープラグコードを接続するときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



2 ACアダプターやシガープラグを、家庭用電源コンセント(AC100V)や車のシガーライターソケット(DC12V)に接続する



- ACアダプターやシガープラグコードは、付属または別売のもの以外は使用しないでください。
- 別売のシガープラグコードは、DC12V接地車専用です。24V車(大型トラック、バス等)では、使用できません。
- 別売のシガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、新しいヒューズ(1A)と交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグコードを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。
- シガープラグ内部には、ヒューズとスプリングが入っています。ヒューズを交換するときは、部品の紛失に注意し、順序を合わせて入れ直してください。

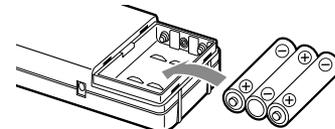
アルカリ電池やニカド電池で使う

1 電池カバーを外す

電池をセットするときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



2 単3形電池3本を内部の指示に従ってセットし、電池カバーを閉める



本機は、外部電源を接続して、内蔵したニカド電池を充電することはできません。

- 種類の違う電池や古い電池などを混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を抜いてください。

1 電源を入れる

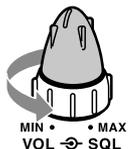
PWRボタン¹を押し続けると、電源が入ります。



- 購入後、初めて電源を入れたときは次のような表示になります。



2 SQLツマミ⁷を左に回しきる



3 音量を調節する

VOLツマミ⁶を回して調節します。



4 受信状態を調整する(スケルチ調整)

“ザー”というノイズが出ているときは、ノイズが消える位置までSQLツマミを右に回します。このとき、モニターボタン⁴は押さないでください。(「モニター機能」44ページ)

また、音声が出ているときは、SQLツマミを中間の位置にします。



- SQLツマミを右に回しすぎると弱い電波が受信できなくなり、左に回しすぎると雑音などを受信してしまいます。聞きたい電波に合わせて調整してください。

VFOモードとは

数字キーやDIALツマミ、△キーを使って周波数を入力したり、変更することができる状態をVFOモードといいます。

VFOモード時のディスプレイは、周波数ステップが点灯している状態になります。[PRI]や動作モード表示部の([SRCH]、[SCAN])、周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部のチャンネルナンバーやP表示(♯)などは消えています。

購入後、初めて電源を入れたときはVFOモードになります。

VFOモードにする

次の4つの方法があります。

■ [SRCH]が点灯中に

SRCHキー²¹を押す。



■ [SCAN]が点灯中に

MRキー²³を2回押す。



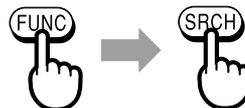
■ チャンネルナンバーが点灯中に

MRキー²³を押す。



■ [♯]が点灯中に

FUNCキー²⁴を押してから、SRCHキー²¹を押す。



周波数ステップ/受信モードの選択(オートモードにする)

電波は、使用する目的や周波数帯によって、受信モード(電波型式)や周波数ステップ(周波数の間隔)の割り当てが異なります。

本機は、あらかじめ周波数帯に合わせて最適な周波数ステップと受信モードが設定されており、周波数ステップの選択や受信モードの選択時に[AUTO]を選択すれば、受信周波数を合わせるだけの操作で、効率的な受信ができます。

- 購入後、初めて電源を入れたとき(工場出荷時)はVFOモードで、周波数ステップ/受信モードはオートモード[AUTO]になります。

初めてマルチバンドレシーバーを使用される方は、このオートモードの状態から操作をしてください。

オートモード時点灯



- 操作をはじめめる前に、他のキーを押すなどしてオートモード以外の設定になっている場合は、周波数ステップ変更または受信モードの変更操作(38、39ページ)を参照して、オートモードに設定し直してください。

数字キーによるダイレクト選局

VFOモードのとき、数字キーを使って周波数を入力することができます。

1 受信したい周波数を、上の位から順に入力する

MHz桁、小数点キー、kHz桁、Hz桁の順に入力します。入力途中の数字は点滅します。

2 ENTキーを押す

入力が確定し、周波数が点滅から点灯に変わります。

- 入力可能な周波数範囲は100kHz~1320MHzです。入力された数字が本機の受信範囲以外の場合は「ビボボ」と鳴り、[Error]が一瞬表示され入力前の表示に戻ります。
- MHzは最大4桁まで入力できます。小数点キー(.)を押さずに5桁目を入力すると、はじめに入力した数値から無効になります。また、kHzとHzは合わせて5桁まで入力できます。小数点キー(.)を押したあとに6桁目を入力すると「ビボボ」と鳴り、6桁目は受け付けません。
- 入力された数値は、周波数ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップ、受信モードなどの設定状況に合った数値に変更されて確定されます。
- 中波放送など1MHz未満の周波数を入力する場合は、数字キー(0)のあとに小数点キー(.)を押してから入力します。(はじめの数字キー(0)を省略することもできます)
- 周波数の入力中に約10秒以上操作が行われないと入力できず、操作前の表示に戻ります。

入力例

① (3) (4) (5) (ENT) と入力した場合

入力キー	表 示
3	---- -- 3-
4	---- --3.4-
5	---- -34.5-
ENT	345.000.0 (345MHzの入力となります)

② (2) (1) (0) (0) (ENT) と入力した場合(受信範囲外の場合)

入力キー	表 示
2	---- -- 2-
1	---- --2.1-
0	---- -21.0-
0	---- -210.0-
ENT	Error (エラー音が鳴り、入力前の表示になる)

③ (1) (1) (2) (3) (4) (.) (5) (6) (7) (8) (9) (9) (ENT) と入力した場合

入力キー	表 示
1	---- -- 1-
1	---- -- 1.1-
2	---- -11.2-
3	---- -112.3-
4	---- -123.4-
	(はじめに入力した1が無効になる)
.	1234.----
5	1234.5---
6	1234.56---
7	1234.567.--
8	1234.567.8-
9	1234.567.85
	(小数点キーを押した後の5桁目は、5以上の数字は5に、4以下の数字は未表示となります)
9	1234.567.85
	(エラー音が鳴り受け付けない)
ENT	1234.550.0-

周波数ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップにより確定される周波数は異なりますが、購入後、初めて電源を入れた状態から上記の入力操作をした場合に確定される周波数は1234.550.0(1234.55MHz)となります。

④ (.) (1) (5) (ENT) と入力した場合

入力キー	表 示
.	---- 0.----
1	---- 0.1---
5	---- 0.15---
ENT	150.0-
	(150kHzの入力となります)

周波数の変更や訂正

周波数の入力中に、桁を選んで数字を変更することができます。

1 C/ACキーを押す

下1桁が早く点滅します。



- C/CAキーをもう1度押すと、変更を中止し、操作前のVFOモードに戻ります。

2 △キーまたは▽キーを押して、訂正する桁を選ぶ

早く点滅している桁が訂正できます。

3 正しい数字を入力する

DIALツマミや数字キーで正しい数字を入力します。

4 ENTキーを押す

入力途中の状態に戻ります。

続けて入力する場合は、次の数字を入力します。

- 約10秒以上操作が行われなくなると、操作前の表示に戻ります。

5 もう1度、ENTキーを押す

入力が確定します。

選局する(VFOモードで受信する)

DIALツマミによる周波数選局

VFOモードのとき、DIALツマミ^[8]を回すと、選んでいる周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

周波数を進める

DIALツマミ^[8]を右に回す



周波数を戻す

DIALツマミ^[8]を左に回す



▲キーまたは▼キーによるステップ選局

VFOモードのとき、▲キー^[29]または▼キー^[30]を押すと、選んでいる周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

周波数を進める

▲キー^[29]を押す



周波数を戻す

▼キー^[30]を押す



▲キー^[29]または▼キー^[30]を1秒以上押し続けると、押し続けている間は周波数の早送り、または早戻しができます。

MHz桁の周波数変更

MHz桁だけの変更ができます。

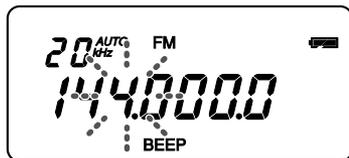
1 FUNCキー^[24]を押す

[FUNC]が点灯します。



2 ▲キー^[29]を押す

MHz桁の下1桁が早く点滅します。



3 ▲キー^[29]または▼キー^[30]を押して、訂正する桁を選ぶ

早く点滅している桁が移動します。

4 正しい数字を入力する

DIALツマミ^[8]や数字キーで正しい数字を入力します。

5 ENTキー^[25]を押す

MHz桁の周波数が変更され入力が確定します。

途中で変更を中止する場合はC/ACキー^[27]を押します。操作前の表示に戻ります。

選局する(サーチモードで受信する)

次ページに続く

VFOモードのとき、表示中の周波数から本機の受信周波数内をサーチさせることができます。

VFOサーチとは<連続サーチ>

電波(周波数)をサーチ(探す)して見つけると、自動的に受信する機能です。設定されている受信モードと周波数ステップでサーチし、受信中に約2秒以上途切れると、再びサーチが始まります。

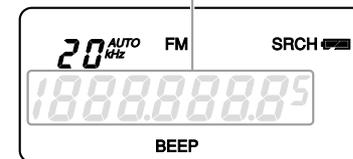
- 電波が途切れてから再びサーチするまでの時間は、約4秒に変更することができます。(「ディスプレイの切り換え」42ページ)

VFOサーチする

SRCHキー^[21]を押す

[SRCH]が点灯し、サーチが始まります。

検索中：表示が変化します



解除するときは、もう1度SRCHキー^[21]を押します。[SRCH]が消えます。

サーチ方向を指定するには

- サーチが停止中(受信中)にDIALツマミ^[8]や▲キー^[29]、▼キー^[30]を操作すると方向が指定され、再びサーチが始まります。

サーチの方向を変える

DIALツマミ^[8]や▲キー^[29]、▼キー^[30]を操作する

周波数の高い方へサーチ

DIALツマミ^[8]を右に回す
または
▲キー^[29]を押す



周波数の低い方へサーチ

DIALツマミ^[8]を左に回す
または
▼キー^[30]を押す



選局する(サーチモードで受信する)

バンドサーチとは

一定の周波数範囲内をサーチさせることができます。周波数そのものが不明な場合でも、おおよその周波数さえわかれば、バンドを指定した範囲内のサーチを行うことができます。

本機は、工場出荷時にあらかじめ下表の内容で登録されています。

また、1~9、0の10バンドは内容を書き替えることもできます。ただし、バンド11(盗聴用周波数)とバンド12(テレビ音声チャンネル)の内容を書き替えることはできません。

バンドの初期登録内容

バンド	名称	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	周波数ステップ(kHz)*	受信モード*
1	AMラジオ	0.5310	1.6290	9	AM
2	FMラジオ	76.0000	90.0000	100	WFM
3	航空無線他(VHF)	118.0000	141.9750	25	AM
4	消防、救急、防災他	146.0200	154.6100	10	FM
5	航空無線他(UHF)	225.0000	380.0000	100	AM
6	小電力コードレス	380.2125	381.3125	12.5	FM
7	アマチュア無線(UHF)	430.0000	440.0000	20	FM
8	タグシー無線	450.0125	451.5000	12.5	FM
9	MCA(業務)無線	850.0125	859.9875	6.25	FM
0	パーソナル無線	903.0375	904.9875	6.25	FM
11	盗聴器周波数	特定周波数(165チャンネル)			FM
12	テレビ音声	1~62ch			WFM

*工場出荷時はオートモードに設定されていますので、一部のバンドではサーチ中、プリセット(37、55ページ)に基づき、周波数に合った周波数ステップと受信モードに自動的に変更されて動作します。

また、記載の周波数ステップと受信モードは、各サーチバンド内の代表的なステップとモードを示したもので、オートモード以外でバンドサーチをする場合は上記を参考に周波数ステップと受信モードを設定してください。

バンドサーチする

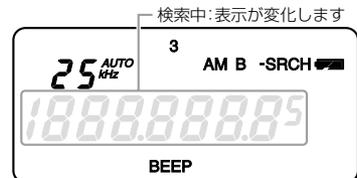
1 数字キー(1~9、0)を押して、聞きたいバンドを選ぶ(バンド指定)

2 SRCHキー[21]を押す

<バンド3を指定した場合の例>



[B-SRCH]とバンドNo.が点灯し、バンドサーチが始まります。



サーチが停止すると、バンドNo.が点滅します。

解除するときは、もう1度SRCHキー[21]を押してください。[B-SRCH]が消えます。

- サーチが停止中(受信中)にDIALツマミ[8]やムキキー[29]、ワキキー[30]を操作すると方向が指定され、再びサーチが始まります。

- [1][2][3][4][SRCH]と複数のバンドNo.を指定した場合は、最終入力値のバンドメモリ4の内容に従ってサーチされます。

- 指定されたバンドの全周波数がサーチパス登録(26ページ)されていると、数秒後「ピポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、操作する前の状態に戻ります。

- バンドの初期登録内容は変更することができます。(「バンド内容を登録(変更)する」43ページ)

- バンドサーチ中に周波数ステップや受信モードの変更が行われた場合は、サーチバンドのメモリ内容も変更され、以降、変更した周波数ステップや受信モードでバンドサーチが行われます。

盗聴器周波数のサーチ

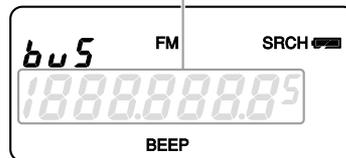
1 数字キー(1)[11]を2回押してから、SRCHキー[21]を押す

バンドサーチと同じ手順で入力します。



周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部に[bus]が表示され、サーチが始まります。

検索中：表示が変化します



サーチ中の操作は、バンドサーチと同じです。ただし、「サーチパスの登録」(26ページ)は、他のモードに移ると解除されます。

解除するときは、もう1度SRCHキー[21]を押してください。[SRCH]が消えます。

- 本機は、無線式の盗聴器で多く使用されている165チャンネルをメモリーしていますが、周波数を変えた盗聴器を取り付けられる場合があります。また、正常な目的に使用されている無線局や、2次的に出ている電波(ノイズ)もあり、受信したからといってすべてが盗聴器とは限りません。

無線式盗聴器の探し方については、次ページをご覧ください。

テレビ音声チャンネルのサーチ

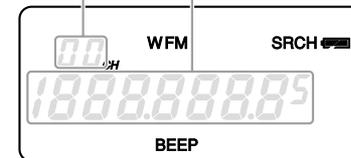
1 数字キー(1)[11]、(2)[12]を押してから、SRCHキー[21]を押す

バンドサーチと同じ手順で入力します。



周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部にテレビチャンネル[1~62]が表示され、サーチが始まります。

検索中：表示が変化します



サーチ中の操作は、バンドサーチと同じです。ただし、「サーチパスの登録」(26ページ)は、他のモードに移ると解除されます。

解除するときは、もう1度SRCHキー[21]を押してください。[SRCH]が消えます。

無線式盗聴器の探し方

1 室内に仕掛けられた盗聴器を探す

- 1 調査する部屋の中で、CD、テープなどの音楽を再生し、室内に常時音が出ている状況にする。
- 2 MVT-7300で盗聴器周波数をサーチする。(「盗聴器周波数のサーチ」(23ページ)をご覧ください)
- 3 サーチが停止して電波を受信したときには、MVT-7300のスピーカーから出ている音と、室内の音楽が一致していることを確認する。
- 4 室内の音楽を変えてみて、MVT-7300のスピーカーから出ている音が変わることを確かめる。



※特定周波数のすべてのチャンネルをサーチし上記および次の確認を行います。

<アドバイス>

室内の音がMVT-7300で受信できる場合には、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

2 電話機に仕掛けられた盗聴器を探す

- 1 電話機の手話器を上げ、「時報(117)」または「天気予報(177)」に電話をかける。
- 2 MVT-7300で盗聴器周波数をサーチする。
- 3 サーチが停止して電波を受信したときには、MVT-7300のスピーカーから出ている音と、電話機の手話器から出ている音声が一致していることを確認する。
- 4 違う電話番号サービスにかけ直して見て、MVT-7300のスピーカーから出ている音声がかわることを確かめる。



- コードレス電話の場合は、子機との通信に電波を使用しています。この電波を受信している場合もありますので、確認を行う際は親機側(無線式でないもの)で電話をかけて1~3の操作をしてください。

<アドバイス>

電話器からの音声がMVT-7300で受信できる場合には、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

3 盗聴器が仕掛けられている可能性があるときには

室内や電話機に盗聴器が仕掛けられている可能性がある場合には、「盗聴器周波数サーチ」で受信中に次の操作をして確認してください。

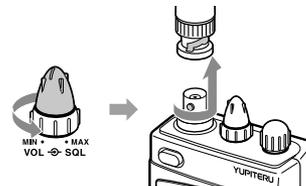
- 1 MVT-7300のSQLツマミ^[7]を時計方向にいっぱいまで回す。



- 2 FUNCキー^[24]、数字キー1^[11]を押して、アッテネーター機能を設定する。



- 3 この状態でもMVT-7300から室内の音楽や電話機の音声が聞こえ、ハウリング(MVT-7300のスピーカーから「ワーン」という音や「ブーン」という音)が発生する場合には、SQLツマミ^[7]を反時計方向にいっぱいまで回した後、MVT-7300のアンテナをはずす。



<アドバイス>

強いハウリングやアンテナをはずしても室内の音や電話機の音声がMVT-7300で受信できる場合には、非常に高い確率で無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

4 盗聴器が仕掛けられている場所を探す

- 1 アッテネーター機能を設定し、アンテナをはずした状態で、家庭電源のコンセントや壁、置き時計など盗聴器が仕掛けられている可能性のある場所に本機を近づけ受信レベル(Sメーター)が強く振れる方向・箇所を探す。



- 2 受信レベル(Sメーター)が強く振れる場所で、ハウリング(MVT-7300のスピーカーから「ワーン」という音や「ブーン」という音が出る状態)が起こる場所・箇所に盗聴器が仕掛けられています。

<アドバイス>

盗聴器は無線式ではありません。また、無線式であっても周波数を変えて取り付けられる場合もありますので、盗聴器の発見には専門知識が必要です。盗聴器の有無や発見の調査は、専門の調査会社にご用命ください。

サーチパスメモリー

常に雑音が出ているなど、不要な周波数をサーチパスとして登録しておく、サーチ中にパス(受信しない)ができますので、効率的にサーチさせることができます。

サーチパスに登録する

- 1 パスしたい周波数を受信する
VFOモードや各サーチモードで受信します。



- 2 FUNCキー[24]を押す
[FUNC]が点灯します。

- 3 C/ACキー[27]を押す

"ビビ"と鳴り、[P]が数秒間表示され、受信中の周波数がサーチパスに登録されて再びサーチが始まります。(次のサーチからは受信しなくなります)



- 最大500まで登録できます。すべて登録されているときは、"ピポポ"と鳴り、登録を受け付けません。[FULL]が約1秒間表示されます。



サーチパスメモリーリードする

登録しているサーチパスメモリーを呼び出して確認することができます。

- 1 FUNCキー[24]を押す
[FUNC]が点灯します。

- 2 数字キー(0)[20]を押す
[P]が点滅します。

VFOモードから操作したときは受信中の周波数より高い周波数方向にサーチして、最も低いサーチパスされた周波数から順に呼び出して受信します。
またサーチモードで受信中に操作を行ったときは、サーチ方向で一番近いサーチパス周波数を呼び出します。



- サーチパスに何も登録されていないと、"ピポポ"と鳴り、[Error]が約1秒間表示され操作する前の状態に戻ります。

- 3 確認したいサーチパスメモリーを選ぶ

DIALツマミ[8]や△キー[29]、▽キー[30]で選びます。

△キーまたは▽キーを約1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

サーチパスメモリーリードを解除するときは、C/ACキー[27]を押すか、もう1度手順1,2を行ってください。呼び出しているサーチパス周波数でVFOモードになります。

サーチパス登録を解除する

サーチパスに登録した周波数を呼び出して、サーチパス登録を解除することができます。

- 1 解除したい周波数を呼び出す
サーチパスメモリーリードで呼び出します。

- 2 FUNCキー[24]を押す
[FUNC]が点灯します。

- 3 C/ACキー[27]を押す
"ビビ"と鳴り、呼び出した周波数がサーチパスから解除されます。

- 解除すると、その周波数より1つ高い周波数のサーチパスが表示されます。
- 多くのサーチパスメモリーを登録している場合では、C/ACキーを押した後、解除完了するまでに数秒程度の時間がかかります。
- すべてのサーチパスを解除すると、"ビ"と鳴り、最後に解除したサーチパス周波数でVFOモードになります。

よく聞くチャンネル(無線局)などは、周波数や周波数ステップ、受信モードなどの情報を含めチャンネルメモリーとして登録しておくことができます。

登録したチャンネルメモリーは、自動的に呼び出し(スキャン)で受信することができます。(32ページ)

登録できる内容

チャンネルごとに以下の内容が登録できます。

- 受信周波数
- 周波数ステップ
- 受信モード
- アッテネーター機能の設定/解除(46ページ)
- スキャンパス登録の設定/解除(30ページ)

チャンネルメモリーに登録する

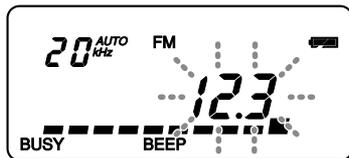
1 登録したい周波数を受信する

VFOモードや各サーチモードで受信します。



2 チャンネル番号を入力する

数字キーを押して、その周波数にチャンネル番号(0~1000までの間)を入力します。



- チャンネル番号の1000チャンネルは、プライオリティチャンネル(36ページ)への登録となります。
- チャンネル番号を入力せずに登録することもできます。そのときのチャンネル番号は、自動的に以前、最後に表示されたチャンネル番号の次の番号になります。
- 再度、同じチャンネル番号に登録すると、登録内容は更新されます。ただし、すでに登録されているチャンネルにスキャンパスやプログラムスキャン登録(30、35ページ)されている場合には、その登録を解除して上書きされます。

3 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

4 SCANキー[22]を押す

“ビビ”と鳴り、登録したチャンネル番号が約1秒間表示されます。



- 登録終了後は、チャンネル番号を入力する前の表示に戻ります。
- 適切でないチャンネル番号が入力されて登録されたときは、“ビボボ”と鳴り、[Error]が約1秒間表示された後、操作を行う前の状態に戻ります。



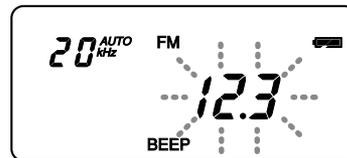
チャンネルメモリーリード<チャンネルメモリーの呼び出し>

登録しているチャンネルメモリーを呼び出して受信することができます。

1 呼び出したいチャンネル番号を入力する

数字キーを押して、チャンネル番号(0~1000)を入力します。

1000チャンネルを指定すると、プライオリティチャンネル(36ページ)を呼び出します。



2 MRキー[23]を押す

選んだチャンネル番号のチャンネルメモリーを呼び出して受信します。



- 選んだチャンネル番号に何も登録されていないときは、周波数が000.000.0の表示になりますが、操作前に受信していた周波数を受信し続けます。
- チャンネル番号を入力しないで呼び出すと、以前、最後に呼び出されたチャンネルメモリー(カレントチャンネルNo.)が呼び出されます。
- 適切でないチャンネル番号が入力されて呼び出されたときは、“ビボボ”と鳴り、[Error]が約1秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

3 他のチャンネルメモリーを選ぶ

DIALツマミ[8]や△キー[29]、▽キー[30]で選びます。

△キーまたは▽キーを1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

チャンネルメモリーの呼び出しを解除するとき、MRキー[23]を押してください。チャンネルメモリーの呼び出しをする前のVFOモードになります。

チャンネルメモリーの登録を削除する

1 削除したいチャンネルメモリーを呼び出す

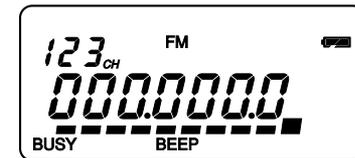
チャンネルメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

3 SCANキー[22]を押す

“ビビ”と鳴り、チャンネルメモリーから削除され、周波数が000.000.0の表示になります。(受信は続きます)



- プライオリティチャンネル(36ページ)を削除することはできません。

チャンネルメモリーの周波数をVFOモードへコピーする

呼び出したチャンネルメモリーの周波数をそのままVFOモードにコピーし、VFOモードで受信できます。

1 コピーしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードや各スキャンで受信します。

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

3 数字キー(7)[17]を押す

チャンネルメモリーの周波数がコピーされ、VFOモードになります。



- 周波数だけでなく、周波数ステップ、受信モード、オートモードの設定、アッテネーター機能の設定などチャンネルメモリーに登録されている内容もコピーされます。
- プライオリティチャンネルをコピーすることはできません。

スキャンパスに登録する

チャンネルメモリーにスキャンパスを登録しておく、スキャン中に受信をパスすることができます。

1 パスしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。(各スキャンで受信中にも登録できます)

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

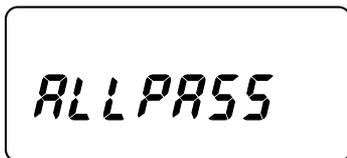
3 C/ACキー[27]を押す

“ピピ”と鳴り、呼び出したチャンネルメモリーにスキャンパスが登録され、[CH]が点滅します。

次のスキャンから受信しなくなります。



- スキャンパスが登録されているチャンネルメモリーも、チャンネルメモリーリードで呼び出すことができます。そのときは[CH]が点滅します。
- プライオリティチャンネルはスキャンパスの登録ができません。
- スキャン停止中に、受信中のチャンネルメモリーをスキャンパスに登録すると、再びスキャンが始まります。また、チャンネルメモリーがすべてスキャンパスに登録されると、“ピポポ”と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、最後にスキャンパスしたチャンネルでメモリーリードとなります。



スキャンパス登録を解除する

登録したスキャンパスを解除することができません。

1 解除したいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

3 C/ACキー[27]を押す

呼び出したチャンネルメモリーのスキャンパス登録が解除されます。



- [CH]の点滅が点灯に変わります。

スキャン(チャンネルメモリスキャン)

スキャンは、あらかじめ登録したチャンネルメモリーを順に呼び出しながら、自動的に無線局を探す機能です。

スキャンについて

本機には、連続スキャン、バンクスキャンの2種類のスキャン機能があります。また、それぞれのスキャン機能は特定の受信モードの無線局だけを探すモードスキャンと、プログラム登録したチャンネルだけを探すプログラムスキャンを選ぶこともできます。

バンクスキャンは、大容量のチャンネルメモリーを効率よくスキャンするため、100チャンネルを1バンクとしてまとめて、スキャンする機能です。本機は、10バンク最大1000チャンネルの登録ができます。

チャンネル番号	区分	バンク指定キー
000~099	1	(1)
100~199	2	(2)
200~299	3	(3)
300~399	4	(4)
400~499	5	(5)
500~599	6	(6)
600~699	7	(7)
700~799	8	(8)
800~899	9	(9)
900~999	0	(0)

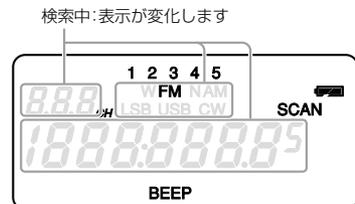
- バンク0の950~999チャンネルは、オートライト用メモリーチャンネルと兼用です。(「オートライト機能」42ページ)

連続スキャンする<全チャンネルスキャン>

登録したすべてのチャンネルメモリーを、チャンネル番号の小さい順からスキャンして、無線局を見つけると自動的に受信します。

SCANキー[22]を押す

[SCAN]の表示とスキャン可能なバンクNo.が点灯し、スキャンが始まります。またスキャンを停止すると、受信中のチャンネルNo.が点灯し、チャンネル番号に対応したバンクNo.が点滅します。



検索中:表示が変化します
<バンク1~5にチャンネルメモリー登録がされている場合の例>

解除するときは、SCANキー[22]またはMRキー[23]を押してください。[SCAN]とバンクNo.が消え、チャンネルメモリーリードになります。

- チャンネルメモリーリード、プログラムスキャン、モードスキャン中にSCANキー[22]を押すと、呼び出しているチャンネルより1つ高いチャンネルから順にスキャンします。
- 受信中に約2秒以上電波が途切れると、再びスキャンを始めます。再びスキャンするまでの時間は、約4秒に変更することができます。(「ディスプレイの切換え」42ページ)
- 何もメモリーされていない状態でSCANキー[22]を押した場合は、「ピポポ」と鳴り、[Error]が約1秒間され、操作を行う前の状態に戻ります。
- チャンネルメモリーがすべてスキャンパス登録されている場合は、「ピポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間され、操作を行う前の状態に戻ります。

スキャンの方向を変える

DIALつまみ[8]や△キー[29]、▽キー[30]を操作する

チャンネル番号の大きい方へスキャン

DIALつまみ[8]を右に回す
△キー[29]を押す



チャンネル番号の小さい方へスキャン

DIALつまみ[8]を左に回す
▽キー[30]を押す



- スキャンが停止中(受信中)に、DIALつまみ[8]や△キー[29]、▽キー[30]を操作すると、方向が指定され、再びスキャンが始まります。

バンクスキャンする<バンク指定スキャン>

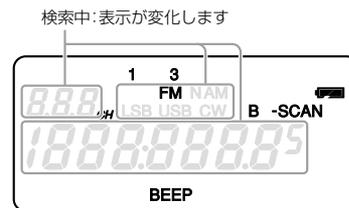
指定したバンクの中にあるチャンネルメモリーを小さい順にスキャンします。

1 数字キーを押して、聞きたいバンクを指定する(バンク指定)

最大4つのバンクが指定できます。

2 SCANキー[22]を押す

[B-SCAN]と指定されたバンク内でスキャン可能なバンクNo.が点灯し、スキャンが始まります。



検索中:表示が変化します
<バンク1、3を指定してスキャンした場合の例>

スキャンが停止すると受信中のチャンネル番号が点灯し、チャンネル番号に該当するバンクNo.が点滅します。

解除するときは、SCANキー[22]またはMRキー[23]を押してください。[B-SCAN]が消え、チャンネルメモリーリードになります。

- 通常、バンク指定した順番にかかわらず、チャンネル番号の小さい順にスキャンされます。
- バンク指定したすべてのチャンネルで、チャンネルメモリー登録されていないときは、「ピポポ」と鳴り、[Error]が約1秒間され、操作を行う前の状態に戻ります。
- 指定されたバンクの全チャンネルメモリーがスキャンパスに登録されていると、「ピポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

モードスキャン

連続スキャンやバンクスキャンを行うときに、指定した受信モードのみのスキャンを行うことができます。

モードスキャンで連続スキャンする<モードスキャン>

VFOモードで、あらかじめ受信モードを選んでおきます。(39ページ)

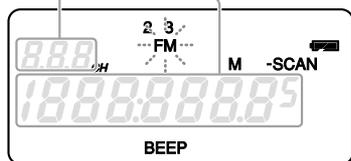
1 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

2 数字キー(8)[18]を押す

[M-SCAN]と、スキャン可能なチャンネルが含まれるバンクNo.が点灯してモードスキャンが始まります。またモードスキャン中は、選ばれている受信モードが減滅します。

検索中:表示が変化します



<FMモードを選んでスキャンした場合の例>

スキャンが停止すると、受信中のチャンネル番号が点灯し、チャンネル番号に対応したバンクNo.が点滅します。

解除するときは、もう1度手順1、2の操作を行ってください。受信またはスキャン中のチャンネルでチャンネルメモリーリードとなります。

- 選んだ受信モードのチャンネルメモリーが登録されていないときは、「ピポポ」と鳴り、[Error]が約1秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。
- 該当するチャンネルがすべてスキャンパス登録されている場合は、「ピポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

モードスキャンでバンクスキャンする<バンク指定モードスキャン>

VFOモードで、あらかじめ受信モードを選んでおきます。(39ページ)

1 数字キーを押して、スキャンしたいバンクを選ぶ

最大4つのバンクが指定できます。

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

3 数字キー(8)[18]を押す

バンク指定モードスキャンが始まります。

プログラムスキャン

プログラム登録した任意のチャンネルのみをスキャンできます。(各バンクからそれぞれ10チャンネル、最大100チャンネルのプログラムスキャンを行います)

プログラムスキャンさせるチャンネルメモリーを指定する<プログラム登録>

1 指定したいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。(各スキャンで受信中でも、登録できます)

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

3 数字キー(6)[16]を押す

「ピピ」と鳴り、プログラムスキャンに登録され、周波数表示部の上に[P]が約1秒間点灯した後、点滅になります。また、メモリーの属するバンク内で何チャンネルのプログラム登録がされたのかを約1秒間表示します。



プログラム登録を削除するときは、プログラムスキャンで呼び出し、手順2、3を行ってください。(すべてのプログラム登録が削除された場合や、指定したバンク内のプログラム登録がすべて削除されたときは、「ピポポ」と鳴り、最後に削除されたチャンネルでメモリーリード状態になります)

- すでにプログラム登録済みのチャンネルに再度他の周波数などのメモリー登録操作を行った場合は、プログラムスキャンのチャンネルメモリーから削除されます。
- プログラムスキャン登録されたチャンネルを、メモリーリードまたは各スキャンにより呼び出したときは、周波数表示部の上に[P]が点滅します。
- 1つのバンクから最大10チャンネルまでプログラム登録することができます。それ以上指定してプログラム登録した場合は順次書き替え、登録されます。
- スキャンパスを登録したチャンネルメモリーをプログラム登録チャンネルに指定することもできます。
- プライオリティチャンネルをプログラム登録チャンネルに指定することはできません。

プログラムスキャンする

1 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

2 数字キー(9)[19]を押す

[P-SCAN]と、プログラムスキャン可能なチャンネルが含まれるバンクNo.が点灯し、スキャンが始まります。スキャンが停止すると、受信中のチャンネルNo.が点灯し、チャンネルNo.に該当するバンクNo.が点滅します。



解除するときは、もう1度手順2、3を行ってください。受信またはスキャン中のチャンネルで、チャンネルメモリーリードとなります。

- プログラム登録されていない状態でプログラムスキャンの操作を行った場合は、「ピポポ」と鳴り、[ERROR]を表示した後、キー操作する前の状態に戻ります。

プログラムスキャンでバンクスキャンする<バンク指定プログラムスキャン>

1 数字キーを押して、スキャンしたいバンクを選ぶ

最大4つのバンクが指定できます。

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

3 数字キー(9)[19]を押す

バンク指定プログラムスキャンが始まります。

プライオリティ

VFOモードや、各種のサーチ、スキャン、チャンネルメモリーリードで受信中に、あらかじめプライオリティチャンネルに登録したチャンネルを約5秒間隔でチェックします。

プライオリティチャンネルに登録する

プライオリティチャンネルは、チャンネル番号の1000chにメモリーすることで登録されます。

1 登録したい周波数を受信する

2 チャンネル番号を入力する

数字キーを押して、1000を入力します。

3 FUNCキー \square を押す

【FUNC】が点灯します。

4 SCANキー \square を押す

“ピピ”と鳴り、【P CH】が約1秒間表示されます。



登録終了後は、チャンネル番号を入力する前の状態に戻ります。

- 工場出荷時のプライオリティチャンネルには350.1MHz(FM)が登録されています。

プライオリティ受信する

1 FUNCキー \square を押す

【FUNC】が点灯します。

2 SRCHキー \square を押す

【PRI】が点灯し、プライオリティ受信が始まります。



<プライオリティ受信中：VFOモードのとき>

- プライオリティ受信に設定すると、5秒ごとにプライオリティチャンネルを監視し、電波があるときは優先して受信します。また、受信電波が途切れたときは、元の受信動作に戻ります。

解除するときは、手順1、2を行ってください。【PRI】が消えます。

受信のためのミニ知識

次ページに続く

例) 放送事業用/連絡用の周波数帯域(162.91MHz~169.99MHz)を受信しようとした場合

下端周波数	上端周波数	周波数ステップ(kHz)	受信モード	シフト幅	オフセット
162.91000MHz	169.99000MHz	20.00kHz	FM(N-FM)	-	○

VHFバンドのメッカともいえる170MHzまでの周波数帯域は、色々な業務などに使用されていますが、上表は、その内の放送業務用/連絡用周波数の割り当てが162.91MHz~169.99MHzにあり、その間を20kHz間隔で使用していることを示しています。

周波数ステップ

限られた電波資源を有効利用するために、各周波数帯では、その通信システムに応じたある一定の間隔で周波数を割り当てています。この間隔が周波数ステップです。

上例では20kHzとなっているので、使用されているのは162.91MHz、162.93MHz、162.95MHz……ということになります。

受信モード

音声や音楽などは、通信システムによってそれらを電波に乗せる方式が違います。

その方式(変調方式)を表しているのが受信モードで、受信周波数が合っているにもかかわらず、この受信モードが受信しようとするシステムと一致していないと、正常な受信ができません。

上例ではFM(N-FM)になっていますが、例えばTV/FM放送ではW-FMモードが、中波ラジオの周波数帯ではAMモードが使用されています。本機では、W-FM、FM(N-FM)、AM、N-AM、LSB、USB、CWモードから選択可能です。

シフト幅

通信システムによっては、円滑な相互連絡が可能になるように、2つの異なる周波数を交互に(システムによっては同時に)使用していることがあります。

この2つの周波数が、どれだけ、どの方向に離れているのかを示すのがシフト幅です。

例えば国際VHFマリンバンドの場合には、シフト幅が±4.6MHzとなっているので、現在受信している周波数が156.05MHz(船舶局側)だとすると、対になるのは160.65MHz(海岸局側)ということになります。

オフセット(オートモード選択時)

従来の機種で上例の周波数帯域を受信しようとした場合、周波数ステップを10kHzとしなければなりませんでしたが、これは受信しようとしている周波数が、周波数ステップで割り切れないことによるものでした。

このため、本来使用されていない周波数(上例では

162.92MHz、162.94MHzなど)をどうしても通ることになるので、例えばサーチを行う場合には余計に時間がかかったり、これらの使用されていない周波数でのノイズなどで止まってしまうようなことが多々ありました。

そこで、このようなことがないように、周波数ステップで割り切れない周波数が使用されている帯域では、周波数ステップで割り切れる周波数から、ある周波数分だけずらすことを可能にしたのがオフセットです。

本機では、上例のように20kHzでは割り切れない周波数が使用されている帯域の場合には割り切れる周波数(上例では162.90MHz、162.92MHzなど)からオフセットすることによって、使用されている周波数だけを受信することを可能にしています。(上例では、10kHzのオフセットをしていることになりました)

周波数(MHz)	本機 (オフセットあり) 周波数ステップ 20kHz	従来機種 (オフセットなし) 周波数ステップ 10kHz
162.91	○	○
162.92	×(飛び越す)	○(通る)
162.93	○	○
162.94	×(飛び越す)	○(通る)
162.95	○	○
169.97	○	○
169.98	×(飛び越す)	○(通る)
169.99	○	○

プリセット

電波は使用する目的や周波数帯によって、受信モード(電波型式)や周波数ステップ(周波数の間隔)の割り当てが異なります。

本機は、あらかじめ周波数帯に合わせて、受信モードや周波数ステップ、オフセットの設定、デュプレックスのシフト幅の情報が設定されています。(「主な無線局の受信モードと周波数ステップ」155ページ)

本機のオートモード(周波数ステップまたは受信モードの変更で【AUTO】選択)では、これら受信周波数帯に合った周波数ステップと受信モード、オフセットが自動的に設定されます。

また、デュプレックス受信では、各周波数ごとに決められたシフト幅で周波数シフトします。

周波数ステップを変更する

VFOモードとサーチモード中に周波数ステップを変更することができます。

1 STEPキー \square を押す

現在の周波数ステップ(数値と単位)が点滅します。



2 周波数ステップを選ぶ

DIALツマミ \square や Δ キー \square 、 ∇ キー \square で選びます。

受信モードにより変更できる周波数ステップが異なります。

受信モード	選択可能な周波数ステップ
FM, AM, NAM	1kHz, 5kHz, 6.25kHz, 8kHz, 9kHz, 10kHz, 12.5kHz, 15kHz, 20kHz, 25kHz, 30kHz, 50kHz, 100kHz, AUTO
W-FM	25kHz, 50kHz, 100kHz, 125kHz, AUTO
CW, LSB, USB	50Hz, 100Hz, 1kHz, 5kHz, 6.25kHz, 8kHz, 9kHz, 10kHz, 12.5kHz, 15kHz, 20kHz, 25kHz, 30kHz, 50kHz, 100kHz, AUTO

操作を途中でやめる場合は、C/CAキー \square または再度STEPキー \square を押してください。

キー操作の途中でも、10秒以内にENTキー \square が押されない場合や、電源のON/OFFの操作が行われた場合には、周波数ステップ選択操作が解除され、STEPキー \square が押される前の状態に戻ります。

3 ENTキー \square を押す

周波数ステップが点灯し、周波数ステップが変更されます。



<初期状態から10kHzステップに変更した場合の例>

- 周波数表示部の数値(周波数)が、選択した周波数ステップで割り切れない場合は、周波数ステップに合った周波数に変更されます。
- AUTOを選択すると周波数ステップの数値と単位の表示が消え、[AUTO]が点滅します。続けてENTキー \square を押すと、周波数に適した周波数ステップが設定され、その周波数ステップ(数値と単位)と[AUTO]が点灯します。
- バンドサーチ中に周波数ステップを変更した場合は、サーチバンドのメモリー内容(22ページ)も書き替えられ、以降は変更した周波数ステップでバンドサーチします。

受信モードを変更する

VFOモードとサーチモード中に受信モードを変更することができます。

1 FUNCキー \square を押す

[FUNC]が点灯します。

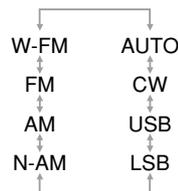
2 STEPキー \square を押す

現在の受信モードと、周波数ステップの表示が点滅します。



3 受信モードを選ぶ

DIALツマミ \square や Δ キー \square 、 ∇ キー \square で選びます。



- 受信モードを切り換えると、周波数ステップも各受信モードに従って切り換わります。

操作を途中でやめる場合は、C/CAキー \square を押してください。

キー操作の途中でも、10秒以内にENTキー \square が押されない場合には、FUNCキー \square が押される前の状態に戻ります。

4 ENTキー \square を押す

受信モードが点灯し、受信モードが変更されます。

また周波数ステップと周波数表示部の数値も、受信モードに適した周波数に変更されます。



<初期状態からAMモードに変更した場合の例>

- AUTOを選択すると受信モード表示部の表示が消え、[AUTO]が点滅します。続けてENTキー \square を押すと、適した受信モードと周波数ステップが設定され、[AUTO]が点灯します。
- バンドサーチ中に受信モードを変更した場合は、サーチバンドのメモリー内容(22ページ)も書き替えられ、以降は変更した受信モードでバンドサーチします。

デュプレックス受信する

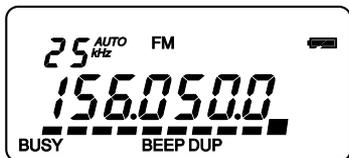
決められた2つの周波数を使い交信(デュプレックス交信)している無線局を受信するときに、その2つの周波数をワンタッチで切り換えて聞くことができます。

例) 国際マリンバンドでの船舶と海岸局の間の交信を受信する場合、船舶の周波数を受信中に、海岸局側の周波数に切り換えて聞くことができます。

デュプレックスモードに設定する

1 FUNCキー[24]を押す
[FUNC]が点灯します。

2 小数点キー(.)[26]を押す
[DUP]が点灯し、デュプレックスモードになります。



解除するときは、もう1度手順1、2を行ってください。[DUP]が消えます。

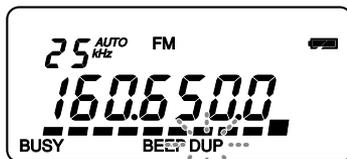
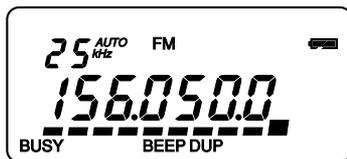
- デュプレックス交信では、2つの周波数の間隔(シフト幅)が電波法で決められています。MVT-7300では、受信できる周波数の中で、定められているシフト幅を、あらかじめプリセットしています。(シフト幅の一覧については、55ページをご覧ください)

デュプレックス交信を受信する

1 [DUP]の点灯を確認する

2 MONIボタン[4]を押す
押ししている間は[DUP]が点滅し、もう一方の周波数が聞けます。
放すと元の周波数が聞けます。

<受信中の周波数>



<もう一方の周波数>
(MONIボタンを押している間)

- デュプレックス交信をしていない無線局を受信中でもデュプレックスモードに設定することはできませんが、これらのシフト幅がプリセットされていない周波数では、MONIボタン[4]を押しても周波数シフトできません。このようなときには、モニター機能としてはたります。(44ページ)
- デュプレックス機能がはたしている間(MONIボタンを押している間)はスケルチを聞き、サーチやスキャンモードの受信中に信号が途切れても、サーチやスキャンをはじめません。

音声反転(スクランブル)の秘話交信を聞く

小電力コードレスなどの秘話機能には、音声を変転させて送信し、受信した後、もう1度反転させて通常の音声に戻す方式が多く使われています。それらの電波は、音声反転しているため、通常の音声として聞くことができません。MVT-7300では、反転された音声の電波を受信した場合でも、通常の音声に戻して聞くことができます。

秘話交信を聞けるのは、受信モードがFMのときのみです。それ以外の受信モードでは機能しません。

1 音声反転の秘話交信を受信中に、SCRボタン[2]を押す

[SCR]が点灯し、秘話交信が通常の音声に戻されて、通話が聞こえます。

2 DIALツマミ[8]を回し、聞き取りやすく調節する

- 音声反転以外の秘話交信を通常の音声として聞くことはできません。
- 音声反転の交信は、音質が変わることがあります。
- 通常の音声を聞くときは、SCRボタン[2]を押さないでください。
- スクランブル交信受信後はSCR機能を解除してください。

解除するときは、もう1度SCRボタン[2]を押してください。

[SCR]が表示されているときは、DIALツマミで周波数を切り換えることはできません。

サーチやスキャンの付加機能

ディレイの切換え

サーチやスキャン中に電波が途切れたとき、再びサーチやスキャンを開始する時間を、約2秒から約4秒に変更することができます。(工場出荷時は約2秒に設定されています)

1 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

2 数字キー(2)[12]を押す

[DLY]が点灯し、再び開始する時間が約4秒になります。



約2秒に戻すときは、もう1度手順1、2を行ってください。[DLY]が消えます。

スキップ機能

サーチやスキャンの停止後、受信中であっても、約5秒後にサーチやスキャンを再開するように設定できます。

1 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

2 数字キー(3)[13]を押す

[SKIP]が点灯します。サーチやスキャンを行うと、スキップ機能がたります。



解除するときは、もう1度手順1、2を行ってください。[SKIP]が消えます。

- プライオリティチャンネルを受信中は、はたしません。

オートライト機能

VFOサーチで受信した周波数を、チャンネルメモリに自動的に登録することができます。登録できるチャンネルは、バンク(0)内の950～999の50チャンネルです。

1 VFOモードにする

「VFOモードにする」(17ページ)をご覧ください。

2 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

3 SCRボタン[2]を押す

[AW]が点灯します。

4 VFOサーチ(21ページ)またはバンドサーチ(22ページ)をする



- サーチが始まり、信号を受信すると“ビ”と鳴り、メモリ登録します。
- メモリ登録をすると、メモリチャンネル番号を約1秒間表示してから、サーチを再開します。
- オートメモリーライトは、チャンネル番号950から順にチャンネルメモリに登録し、50チャンネルすべてに登録すると“ビビ”と鳴り、オートメモリーライトとサーチを終了し、VFOモードになります。
- オートライト中に手順2、3を行ったときや、スキャンなど、サーチ以外のモードにした場合はオートメモリーライトを途中で中止し、オートライト機能が解除されます。この状態から、再度、続けてメモリーを行った場合は、登録済みの次のチャンネルからメモリ登録されますが、950～999チャンネルをスキャンやチャンネルメモリーリードで呼び出した状態から、オートメモリーライトを行った場合は、最後に呼び出された次のチャンネルからメモリ登録されます。
- オートライト機能は、950～999チャンネルの間ですべてにメモリ登録されているチャンネルへも順次書き替え登録しますので、ご注意ください。

サーチバンドの内容を変更する

サーチバンドメモリー

1～9、0のバンドに登録されている内容(22ページ)を変更することができます。(バンド11とバンド12は変更できません)

なお、バンド内容の変更は、VFOモード(17ページ)で行います。

あらかじめ周波数ステップ(38ページ)や受信モード(39ページ)アッテネーターの設定/解除(46ページ)など、必要な設定を行っておいください。

1 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

2 MRキー[23]を押す

バンドNo.0～9と周波数の表示が点滅します。



3 数字キーで、下限周波数を入力する

周波数表示部に周波数が点滅します。

4 ENTキー[25]を押す

約1秒後に、周波数表示が消えます。

5 数字キーで、上限周波数を入力する

周波数表示部に周波数が点滅します。

6 ENTキー[25]を押す

約1秒後に、周波数表示が消えます。

7 数字キーで、登録(変更)したいバンドを選ぶ

8 ENTキー[24]を押す

“ビビ”と鳴り、登録したバンドNo.を周波数表示部に約1秒間点灯した後、周波数表示がバンド内容の登録(変更)を行う前の状態に戻ります。

以上で登録完了です。

- 入力された周波数は、あらかじめ設定されている受信モードと周波数ステップにより、調整されて登録されます。
- 下限周波数と上限周波数の入力は、順序を逆にしても登録を受け付けます。
- 数字キーの入力途中でC/ACキー[27]を押すと、周波数の変更(19ページ)や登録するバンドの訂正ができます。もう1度C/ACキーを押すと、バンド登録操作が解除され、操作を行う前の状態に戻ります。
- キー入力をはじめてから、10秒以内に次のキー操作が行われないと、バンド登録操作が解除され、操作を行う前の状態に戻ります。
- 入力する周波数が受信範囲以外の場合には、“ビボボ”と鳴り、[Error]を表示した後、バンド登録操作を行う前の状態に戻ります。
- バンド登録の操作中であっても、操作した周波数で受信を継続します。

モニター機能

受信中の電波が弱く、音が途切れて聞こえるときなどに、聞き取りやすくすることができます。

MONIボタン^④を押す

押している間、モニター機能がはたらき聞き取りやすくなります。

放すと元の状態に戻ります。

- 各種サーチ/スキャン中にMONIボタン^④を押すと、押している間サーチ/スキャンが停止します。
- スケルチ調整中は、MONIボタン^④を押さないでください。
- デュープレックスが設定されているときは、違はたらきをします。(40ページ)

ランプ機能

ディスプレイとキーの照明機能です。点灯状態で固定したり、ディスプレイの照明色を変更することができます。

LAMPボタン^③を1度押したとき

ランプが約5秒間点灯します。点灯中に各キーを操作すると、最後のキー操作から約5秒間、ランプが点灯します。

- すぐ(5秒以内)に消灯させたい場合はもう1度ランプボタンを押します。
- PWRボタン^①、VOLツマミ^⑥、SQLツマミ^⑦を操作しても、ランプは点灯を継続(5秒間)しません。

LAMPボタン^③を1秒以上押したとき

[☆]が点灯し、ランプが点灯したままになります。



解除するときは、もう1度LAMPボタン^③を押してください。ランプと[☆]表示が消えます。

ディスプレイの色を切り換える

ディスプレイの色を、イエローグリーンまたはオレンジに切り換えることができます。(工場出荷時はイエローグリーンです)

1 FUNCキー^{②④}を押す

2 LAMPボタン^③を押す

バックライトの色が切り換わり約5秒間ランプが点灯します。

- すぐに消灯させたい場合は、もう1度ランプボタンを押してください。
- 操作キーの照明色：イエローグリーンを切り換えることはできません。

ビープ音の切換え

キー操作をしたときに、確認のため、次のような操作音(ビープ音)が鳴ります。工場出荷時は鳴るように設定されていますが、この音を消すことができます。

キー操作	ビープ音
キーを押したとき	"ピ"
登録完了	"ピピ"
操作が正しくないとき	"ピボポ"

1 FUNCキー^{②④}を押す [FUNC]が点灯します。

2 数字キー(5)^⑮を押す

[BEEP]が消え、操作音が鳴らなくなります。



ビープ音を鳴らすときは、もう1度手順1、2を行ってください。[BEEP]が点灯します。

キーロック機能

誤動作などを防止するため、キー操作とDIALツマミの操作を無効にすることができます。ただし、ロック中でもPWRボタンとキーロック解除の操作、VOLツマミ、SQLツマミは操作できます。

1 FUNCキー²⁴を押す
【FUNC】が点灯します。

2 ▽キー³⁰を押す
【**LO**】が点灯し、ロックに設定されます。



解除するときは、もう1度手順1、2の操作を行ってください。【**LO**】が消えます。

アッテネーター機能

テレビ放送局などの強い電波の影響で、混信や雑音といった障害を受けるときに、聞き取りやすくすることができます。

1 FUNCキー²⁴を押す
【FUNC】が点灯します。

2 数字キー(1)¹¹を押す
【ATT】が点灯し、アッテネーターが設定されます。



解除するときは、もう1度手順1、2を行ってください。【ATT】が消えます。

- アッテネーターを設定したときの減衰量は約15dBです。
- アッテネーターを設定したままでは、弱い電波の受信ができなくなります。必要な場合のみ設定してください。
- VFOサーチやバンドサーチ中にアッテネーターの設定を行うこともできます。(サーチパスメモリーにも登録できます)
なお、バンドサーチ中にアッテネーターの設定/解除を行うと、そのバンドメモリーにはアッテネーター機能が設定/解除された状態で再登録されます。
- 各スキャンモードで受信中にアッテネーターの設定/解除を行うと、そのチャンネルメモリーの内容は、アッテネーター機能が設定/解除された状態で再登録されます。

バッテリーセーブ機能

受信待ち受け中に一定間隔で動作を休止させ、電池の消耗を抑える機能です。バッテリーセーブ機能を設定すると、約5秒以上、操作や受信が途切れるとバッテリーセーブ動作となります。

バッテリーセーブ機能を設定する

1 VFOモードまたはチャンネルメモリーリードにする
17ページまたは29ページをご覧ください。

2 数字キー(1)~(3)を押して、休止時間を選ぶ

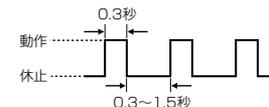
●数字キーと休止時間

数字キー	動作時間	休止時間	デューティ比
1	0.3秒	0.3秒	1:1
2	0.3秒	0.9秒	1:3
3	0.3秒	1.5秒	1:5

3 FUNCキー²⁴を押す
【FUNC】が点灯します。

4 数字キー(4)¹⁴を押す
選択した休止時間に対応する数字と【SAVE】の表示が点灯し、バッテリーセーブ機能が設定されます。

選択した数字が表示されます。



<セーブ機能設定時の動作時間と休止時間>

操作や受信が約5秒以上途切れると

VFOモード、チャンネルメモリーリード中に、操作や受信が約5秒以上途切れると、セーブ状態(本機の内部動作)になります。

- セーブ時間の選択を省略した場合や、誤った数字キーが入力されたときは、数字キー1の設定(受信時間0.3秒/休止時間0.3秒、デューティ比1:1)になります。

解除するときは、もう1度手順3、4を行ってください。【SAVE】が消えます。

またサーチやスキャンなど、VFOモードまたはチャンネルメモリーリード以外の動作を行うとバッテリーセーブ機能は解除されます。

クローン機能

メモリー内容を、他のMVT-7300にコピーすることができます。

- 1 電源をOFFにした2台のMVT-7300のEAR端子間を、市販の3.5φステレオミニプラグコードで接続する



3.5φステレオミニプラグ(市販のもの)
※抵抗入のものは使用できません。

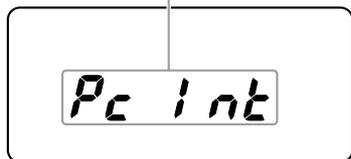
- 2 2台のMVT-7300の電源をONにして、VFOモードにする

- 3 次の順に数字キーとFUNCキー[24]、C/CAキー[27]を押す(2台とも設定します)



クローンモードになります。

周波数表示部に Pc Intと表示されます。



- 4 全メモリーデータを相手側(受け側)に転送する

データを送る側のMVT-7300の数字キー(1) [10]とENTキー[25]を押す。



- クローン中は送り側受け側とも転送中のメモリーのアドレスをディスプレイに表示します。
- すべてのデータが転送されると、送り側は[PcInt]の表示に戻ります。また、受け側は電源がOFFになり、[CLEAR]を1秒間表示した後、時計表示となります。
- クローン時間は、転送するメモリーの登録状況にもよりますが、約6分です。
- クローンの動作を途中で中止することはできません。データ転送中はキーの操作を受け付けません。
- データ転送中に異常があったときは、ディスプレイに[Error]が数秒間表示された後、[PcInt]の表示に戻ります。EAR端子の接続などを確認して、はじめからやり直してください。

- 5 送り側のMVT-7300の電源をOFFにし、3.5φステレオミニプラグコードをははずす

注意

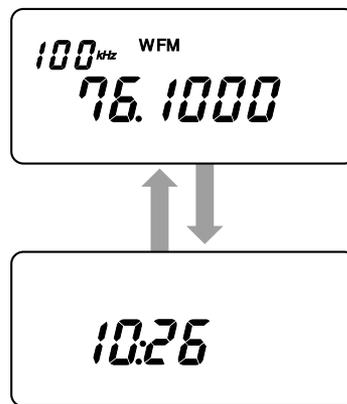
クローンモードにした後、キーの操作を誤らないよう、十分注意してください。

1、ENT以外の下記の操作をすると、メモリーが消去されます。(54ページ)

送り側のキー操作 (クローンモード中)	送り側	受け側
[6] [ENT]	—	全メモリー消去
[7] [ENT]	全メモリー消去	—

タイマー機能について

電源をOFFにするとディスプレイに時刻が表示されます。また、電源ONでVFOモードで使用中は、ENTキー[25]を押して、時計時刻と受信周波数の表示を切り換えることができます。



電源ONのときは、VFOモード時のみENTキーを押すことで約5秒間、時計時刻が表示できます。

セットモードにする

MVT-7300はタイマー機能により、アラーム、ONタイマー、OFFタイマーを設定することができます。これらの設定は、セットモードで行います。

- 1 VFOモードにする

購入後、初めて電源を入れたとき(工場出荷時)はVFOモードになります。(17ページ)

- 2 FUNCキー[24]を押す
[FUNC]が点灯します。

- 3 ENTキー[25]を押す

セットモードになり、現在の時刻表示で止まります。



時計時刻の設定、アラーム機能の設定、ONタイマー機能の設定、OFFタイマー機能の設定はこのセットモードから行います。

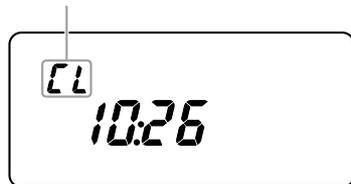
- 設定の各操作は10秒以内に行ってください。
- セットモードを解除するときはC/CAキー[27]を押します。VFOモードに戻ります。

時計時刻の設定

1 セットモードにする
49ページをご覧ください。

2 DIALツマミ^⑧を回して、時計の時刻設定を選ぶ

時刻設定



3 ENTキー^{②⑤}を押す
時間表示が点滅します。



4 DIALツマミ^⑧を回して、時間を選ぶ



5 ENTキー^{②⑤}を押す
分表示が点滅します。



6 DIALツマミ^⑧を回して、分を選ぶ



7 ENTキー^{②⑤}を押す
“ビビ”と鳴り、設定完了です。

設定した時刻を約1秒間点灯した後、VFOモードの表示になります。

途中で中止するときは、C/AC^{②⑦}キーを押してください。VFOモードに戻ります。

●設定操作は、10秒以内に行ってください。数字キーの入力やDIALの操作が10秒以上行われないときは、VFOモードに戻ります。

本機の時計時刻表示機能は1カ月に3分程度ずれることがあります。時計時刻を合わせてからご使用ください。

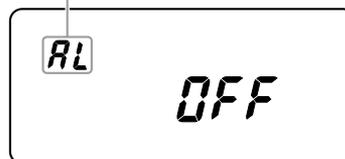
アラーム機能の設定

アラーム機能は、電源のON/OFF状態に関係なく、設定した時刻にアラーム音(“ビビッ”、“ビッビッ”)を鳴らす機能です。

1 セットモードにする
49ページをご覧ください。

2 DIALツマミ^⑧を回して、アラーム設定を選ぶ
OFFまたはONの表示が点灯します。

アラーム設定



3 ENTキー^{②⑤}を押す
OFFまたはONの表示が点滅します。



4 DIALツマミ^⑧を回して、アラーム機能のON(またはOFF)を選ぶ

5 ENTキー^{②⑤}を押す
時間表示が点滅します。
OFFを選択してENTキー^{②⑤}を押したときには、“ビビ”と鳴り、設定完了です。

6 DIALツマミ^⑧を回して、時間を選ぶ

7 ENTキー^{②⑤}を押す
分表示が点滅します。

8 DIALツマミ^⑧を回して、分を選ぶ

9 ENTキー^{②⑤}を押す
“ビビ”と鳴り、設定完了です。

設定した時刻を約1秒間点灯した後、VFOモードの表示になります。

途中で中止するときは、C/AC^{②⑦}キーを押してください。VFOモードに戻ります。

●設定操作は、10秒以内に行ってください。数字キーの入力やDIALの操作が10秒以上行われないときは、VFOモードに戻ります。

ONタイマー機能の設定

設定した時刻に、自動的に電源をONにする機能です。

- 1 セットモードにする
49ページをご覧ください。
- 2 DIALツマミ^[8]を回して、ONタイマー設定を選ぶ
OFFまたはONの表示が点灯します。
ONタイマー設定
- 3 ENTキー^[25]を押す
OFFまたはONの表示が点滅します。
- 4 DIALツマミ^[8]を回して、ONタイマー機能のON(またはOFF)を選ぶ
- 5 ENTキー^[25]を押す
時間表示が点滅します。
OFFを選択してENTキー^[25]を押したときには、「ビビ」と鳴り、設定完了です。



- 6 DIALツマミ^[8]を回して、時間を選ぶ
- 7 ENTキー^[25]を押す
分表示が点滅します。
- 8 DIALツマミ^[8]を回して、分を選ぶ
- 9 ENTキー^[25]を押す
“ビビ”と鳴り、設定完了です。

設定した時刻を約1秒間点灯した後、VFOモードの表示になります。

ONタイマー機能がはたらいている間は電源OFFで時計時刻表示中ディスプレイの動作モード表示部に[TIMER]の表示が点灯します。

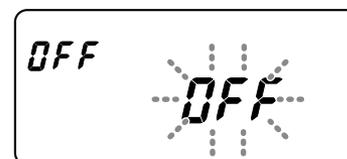
途中で中止するときは、C/AC^[27]キーを押してください。VFOモードに戻ります。

- 設定操作は、10秒以内に行ってください。数字キーの入力やDIALの操作が10秒以上行われないときは、VFOモードに戻ります。

OFFタイマー機能の設定

OFFタイマー機能は、設定した時間が経過すると、自動的に電源がOFFになる機能です。この機能は設定したとき1回だけの機能ですので、設定後電源をOFFにすると無効になります。

- 1 セットモードにする
49ページをご覧ください。
- 2 DIALツマミ^[8]を回して、OFFタイマー設定を選ぶ
OFFまたはONの表示が点灯します。
OFFタイマー設定
- 3 ENTキー^[25]を押す
OFFまたはONの表示が点滅します。
- 4 DIALツマミ^[8]を回して、OFFタイマーの機能のON(またはOFF)を選ぶ
- 5 ENTキー^[25]を押す
電源OFFまでの時間表示(分)が点滅します。
OFFを選択してENTキー^[25]を押したときには、「ビビ」と鳴り、設定完了です。
- 6 DIALツマミ^[8]を回して、時間を選ぶ
OFFタイマー時間は、1分～180分です。
- 7 ENTキー^[25]を押す
“ビビ”と鳴り、設定完了です。



設定した時刻を約1秒間点灯した後、VFOモードの表示になります。

OFFタイマー機能がはたらいている間はVFOモードに戻った後、ディスプレイの動作モード表示部に[TIMER]の表示が点灯します。

途中で中止するときは、C/AC^[27]キーを押してください。

- 設定操作は、10秒以内に行ってください。数字キーの入力やDIALの操作が10秒以上行われないときは、VFOモードに戻ります。

初期設定

リセット機能について(メモリーオールクリア)

メモリーをすべて消去して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

1 クローンモードを設定する(48ページ)

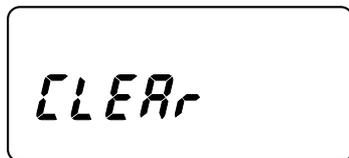
EAR端子に市販の3.5φステレオミニプラグコードを接続する必要はありません

クローンモードにして、周波数表示部に[PcInt]が表示された状態にします。

2 全メモリーを消去する 数字(7)とENTキーを押す

7 **ENT**

メモリーの消去が始まるとディスプレイの表示が消えます。その後、メモリー消去が完了すると【**CLR**】を数秒間表示した後、自動的に電源をOFFにし時計表示となります。



●クローン機能の設定中2台のMVT-7300のEAR端子間を市販の3.5φステレオミニプラグコードで接続した状態でのメモリー消去の操作については48ページをご覧ください。

ご注意

本機は工場出荷後、付属のメモリーリスト(暫定)の内容をチャンネルメモリーに登録してありますが、これらのメモリー内容は本操作をすると全て消去されます。また、サーチバンドのメモリー内容も初期登録内容に変更されますので、ご注意ください。

■工場出荷時の設定

項目	初期設定	参照ページ
動作モード*	VFOモード: 144.000.00MHz	16
BEEP	ON	45
KEY LOCK	OFF	46
SKIP	OFF	42
AW	OFF	42
PRI	OFF	36
ATT	OFF	46
SCR	OFF	41
チャンネルメモリー	登録なし	28
PRIチャンネルメモリー	350.1MHz	36
サーチパスメモリー	登録なし	26
カレントチャンネルNo.	000CH	29

*工場出荷時の設定はAUTOモード: 周波数ステップ、受信モード、オフセットの設定は、プリセットに基づく。

*サーチバンドの工場出荷時の登録内容は22ページの通りです。

主な無線局の受信モードと周波数ステップ(プリセット)

本機には下表に示す主な無線局のほかに、すべての受信周波数帯で最も活用されると予測される受信モード、周波数ステップなどが、あらかじめ設定されています。

主な無線局	周波数の目安(MHz)	受信モード	周波数ステップ(kHz)	シフト幅(MHz)	オフセット
中波放送	0.522 ~ 1.629	AM	9.00	—	—
短波放送	3.9 ~ 3.999 4.438 ~ 4.627 4.75 ~ 5.099 5.9 ~ 6.199 7.10005 ~ 7.519 9.165 ~ 10.004 11.575 ~ 12.169 13.41 ~ 13.799 15.05 ~ 16.004 17.5 ~ 17.9 21.46 ~ 21.899 25.55 ~ 26.099	AM	1.00	—	—
船舶無線	35.536 ~ 35.992 39.530 ~ 39.992	AM	8.00	±4.0	—
アマチュア無線(28MHz帯)	28.0 ~ 29.7	CW/USB/FM	0.05/10.00	±0.1*	—
アマチュア無線(50MHz帯)	50.0 ~ 54.0	CW/USB/FM	0.05/20.00	—	—
FM放送	76.0 ~ 90.0	W-FM	100.00	—	—
テレビ音声(1-3CH)	90.05 ~ 107.95	W-FM	100.00	—	○
航空無線(VHF)	108.0 ~ 135.975 138.0 ~ 141.975	AM	25.00	—	—
アマチュア無線(144MHz帯)	144.00005 ~ 145.98	CW/USB/FM	0.05/20.00	—	—
国際VHFマリンバンド	156 ~ 157.425 160.6 ~ 162.025	FM	25.00	±4.6	—
テレビ音声(4-12CH)	170.05 ~ 224.95	W-FM	100.00	—	○
航空無線(UHF)	225.0 ~ 262.0	AM	100.00	—	—
特定小電力無線電話(復信/半復信)	421.5625 ~ 421.9125 440.0125 ~ 440.3625	FM	12.50	±18.45	—
アマチュア無線(430MHz帯)	430 ~ 440	CW/USB/FM	0.05/20.00	±5.0*	—
タクシー無線	450.25 ~ 451.5 458.25 ~ 459.5	FM	12.50	±8.0	—
新タクシー無線	453.3 ~ 453.3375 467.8 ~ 467.8375	FM	12.50	±14.5	—
テレビ音声(UHF)	470.05 ~ 769.95	W-FM	100.00	—	○
特定小電力ラジオマイク	797.125 ~ 809.875	W-FM	125.00	—	—
MCA/JSMR	834.0 ~ 837.99375 889.0 ~ 892.99375	FM	6.25	±55.0	—
地域防災行政無線	846.0 ~ 847.175 848.825 ~ 849.975	FM	25.00	—	—
地域防災行政MCA	850.0 ~ 859.99375 901.2 ~ 902.8	FM	25.00	±54.0	—
パーソナル無線	902.8125 ~ 904.9875	FM	6.25	—	—
アマチュア無線(1.2GHz)	1260.0 ~ 1300.0	FM	20.00	±20.0*	—

*レピーター局用周波数受信時のみ

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にご相談ください。

症状	原因	処置
ディスプレイに何も表示されない	電池が消耗している	電池を交換する(15ページ参照)
ときどき CH が表示される	プライオリティ機能がはたらいている	プライオリティ機能を解除する(36ページ参照)
P 表示が点滅している	サーチバスメモリーを呼び出している	サーチバスメモリーリードを解除する(26ページ参照)
受信が途切れる	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	交信局の電波が弱い	MONIボタンを押す(44ページ参照)
	アッテネーター機能がはたらいている	アッテネーター機能を解除する(46ページ参照)
正常な音声で受信できない	スクランブルがONになっている	スクランブルを解除する(41ページ参照)
キーを押しても動作しない	キーロック機能がONになっている	キーロック機能を解除する(46ページ参照)
周波数を入力できない	受信周波数範囲でない周波数を入力している	受信周波数範囲内の周波数を入力する
サーチができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	MONIボタンを押している	MONIボタンを放す(44ページ参照)
スキャンができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	MONIボタンを押している	MONIボタンを放す(44ページ参照)
	すべてのチャンネルメモリーがスキャンバスに登録されている	スキャンバスの登録を解除する(31ページ参照)
	すべてのチャンネルメモリーに何も登録されていない	チャンネルメモリーに登録する(28ページ参照)

アフターサービスについて

■保証書(別に添付しています)

保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ年月日」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りいただき、保証内容をよくお確かめのあと、大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げの日から1年間です。

■対象部品

機器本体(消耗部品を除く)

■修理を依頼されるとき

「故障かな？と思ったら」の点検をしていただいても、なお異常があるときは

●保証期間中のとき

恐れ入りますが、お買い上げの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定に従って修理いたします。

●保証期間が過ぎているとき

お買い上げの販売店にまずご相談ください。お客様のご要望により有料修理いたします。

なお、故障状況は、なるべく詳しくご連絡ください。

■アフターサービスなどについてご不明な点は

お買い上げの販売店または、最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にお問い合わせください。

仕様

受信周波数範囲(MHz)	: 0.531~1320MHz(表示範囲 0.1~1320MHz)
受信モード	: FM、W-FM、N-AM、AM、LSB、USB、CW、AUTO
周波数ステップ*(Hz)	: 50、100、1k、5k、6.25k、8k、9k、10k、12.5k、15k、20k、25k、30k、50k、100k、125k、AUTO
受信感度	0.531MHz~2.0MHz未満 AM : S/N 10dB時5.0 μ V以下 2.0MHz~30MHz未満 AM : S/N 10dB時2.5 μ V以下 SSB : S/N 10dB時1.0 μ V以下 30.0MHz~470.0MHz未満 FM : SINAD 12dB時0.5 μ V以下 W-FM : SINAD 12dB時1.0 μ V以下 AM : S/N 10dB時1.0 μ V以下 SSB : S/N 10dB時0.5 μ V以下 470.0MHz~830.0MHz未満 FM : SINAD 12dB時0.75 μ V以下 W-FM : SINAD 12dB時1.5 μ V以下 830.0MHz~1000.0MHz未満 FM : SINAD 12dB時0.75 μ V以下 1000.0MHz~1320.0MHz未満 FM : SINAD 12dB時1.0 μ V以下

チャンネルメモリー数	: 1000ch
サーチバスメモリー数	: 500ch
プライオリティチャンネルメモリー数	: 1ch
バンクメモリー数	: 10BANK
チャンネル数/1バンク	: 100ch/BANK
プログラムチャンネルメモリー数	: 10ch/BANK(100ch)
バンドメモリー数	: 12BAND
サーチスピード	: 30STEP/sec
スキップスピード	: 30ch/sec(最大)
アンテナインピーダンス/型式	: 50 Ω /BNC
電源	: 4.5V(単3形アルカリ乾電池 1.5V \times 3本) 外部電源(ACアダプター: AC100V/カーバッテリー: DC12V)

低周波出力	: 90mW以上(4.5V 8 Ω /THD10%)
消費電流(4.5V時)	: 最大出力時 180mA(標準) 待ち受け時 105mA(標準)
動作保証温度範囲	: 0 $^{\circ}$ C~50 $^{\circ}$ C (ACアダプター 0 $^{\circ}$ C~40 $^{\circ}$ C)
外形寸法	: 60.0(W) \times 120.0(H) \times 32.0(D)mm (突起物は含まず)
重量	: 約310g(付属アンテナ、電池を含んだとき)
別売オプション	: ソフトケース(OP-73) 標準価格2,000円(税別) : シガープラグコード(OP-5) 標準価格2,000円(税別)

* 受信モードによって、選択可能なステップが限られます。

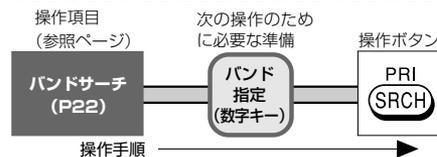
※製品改良のため、仕様および外観の一部を予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

操作早見表

次ページに続く

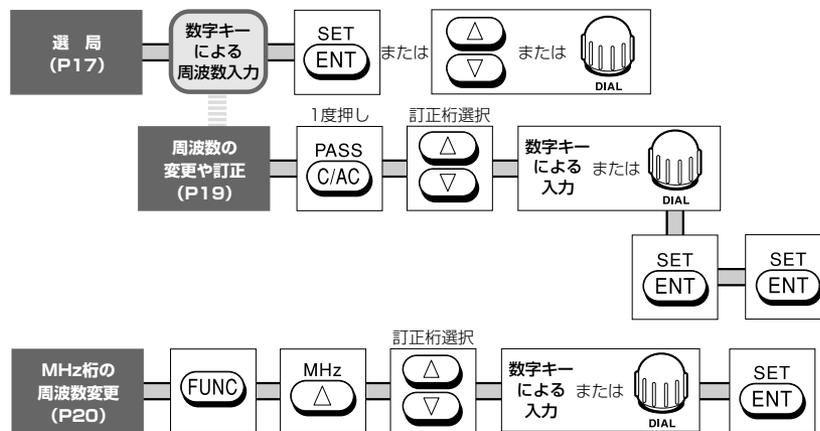
操作早見表の見方

この操作早見表は、左側の操作項目から、右方向へ順に操作してください。操作の詳細については、参照ページをご覧ください。

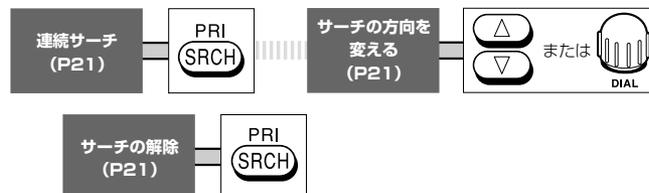


1 基本の操作

選局する...VFOモードで受信する。



選局する...サーチモードで受信する。



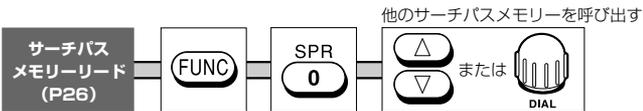
知ってよかったら

知ってよかったら

選局する…バンドサーチ



サーチパスメモリ



2 メモリーとスキャン

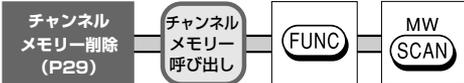
チャンネルメモリ



●チャンネル番号の入力は省略することもできます。



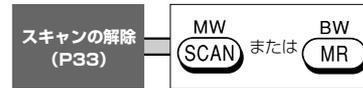
●チャンネル番号の入力は省略することもできます。



スキャンパス



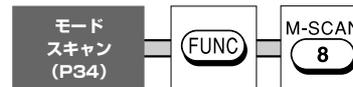
スキャン…連続スキャンする。



バンクスキャン



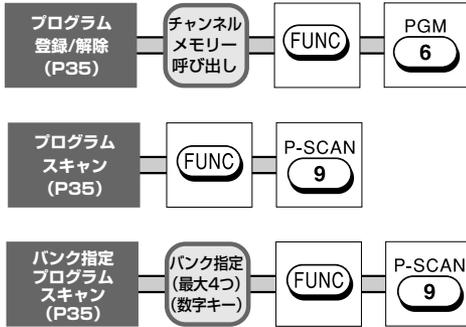
モードスキャン…受信モードをあらかじめVFOモードで受信モードを選んでおく。



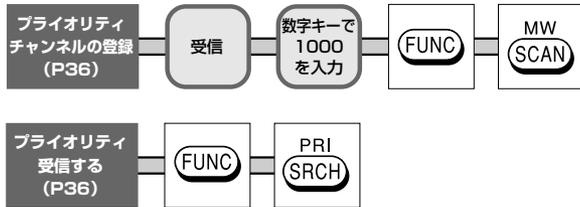
知っておきたいこと

知っておきたいこと

プログラムスキャン

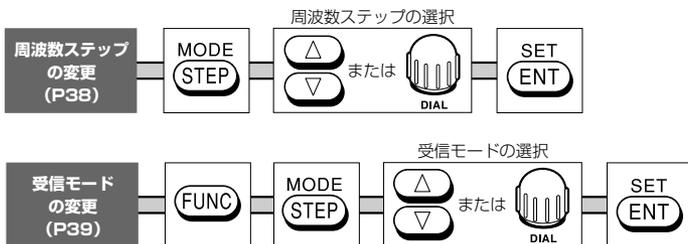


プライオリティ

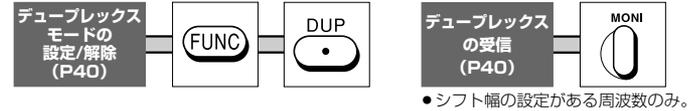


3 その他の機能

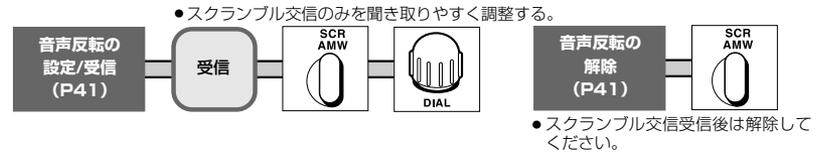
周波数ステップを変更する



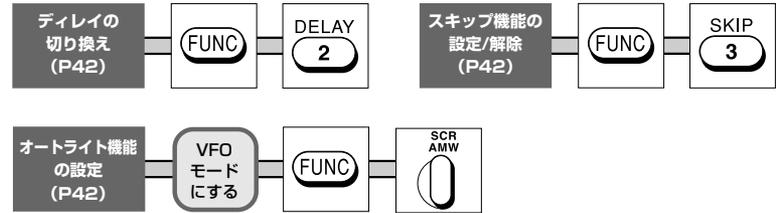
デュープレックス受信する



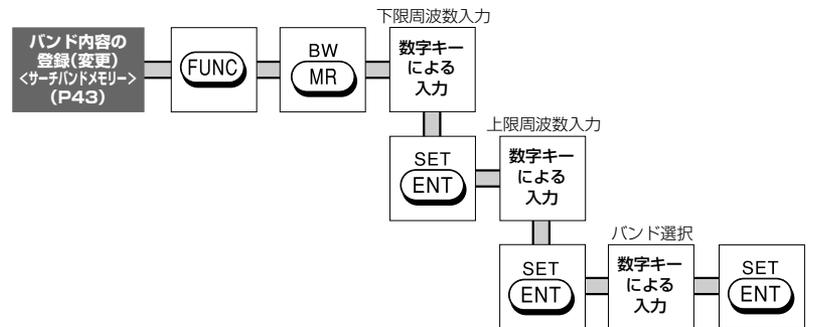
音声反転(スクランブル)の秘話交信を聞く



サーチやスキャンの付加機能



サーチバンドの内容を変更する…あらかじめ周波数ステップと受信モードを選んでおく。

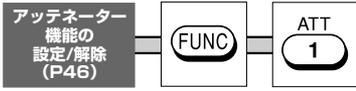
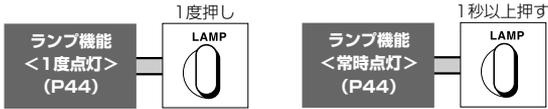
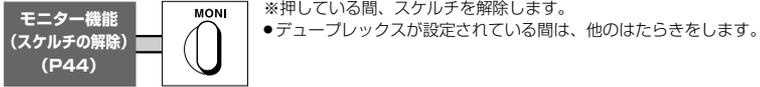


知っておきたいこと

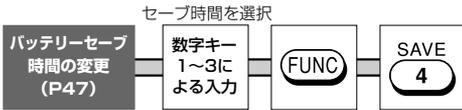
知っておきたいこと

操作早見表

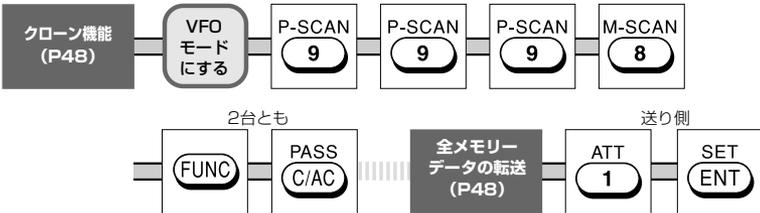
付加機能(便利な機能を使う)



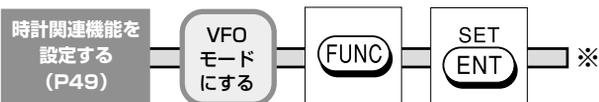
バッテリーセーブ時間の変更...VFOモード、チャンネルメモリー呼び出しのときのみ設定できます。



クローン機能...設定内容を他のMVT-7300にコピーする。



時計関連機能…VFOモード時のみ設定できます。

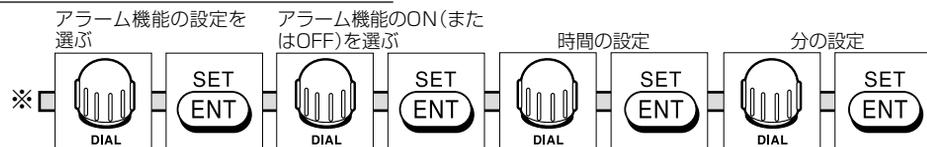


● セットモードで設定する機能を選択します。

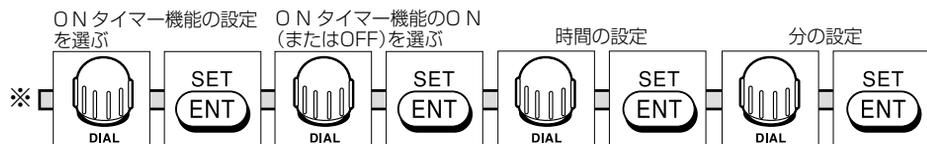
時計時刻の設定(P50)



アラーム機能の設定(P51)



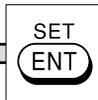
ONタイマー機能の設定(P52)



OFFタイマー機能の設定(P53)

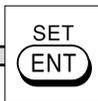
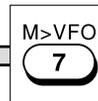


受信中に
時計時刻を
表示する
(P49)



● 電源ON時は、VFOモード時のみ、約5秒間表示できます。
● 電源OFF時は、時計時刻をディスプレイに表示します。

リセット
<メモリーオールクリア>
(P54)



知
っ
て
お
き
た
ら
こ
ん